

泉南市遺跡群発掘調査報告書 XXI

泉南市文化財調査報告書 第四十二集

2004. 3

泉南市教育委員会

序 文

私たちの街、泉南市は近年の都市化に伴いその姿を大きく変貌させてきました。それは私たちの日々の生活を物質的に豊かにし、格段に暮らしやすいものとなりました。

ところがその一方では、はるか古代から残されてきた郷土の豊かな自然や景観を大きく変化させ、さまざまな過去の文化を現代に生きる我々に見えにくいものとしてしまいました。埋蔵文化財の発掘調査は、まさにこれら先人の残した文化を現代によみがえらせる近道のひとつといえるでしょう。

本市では、先人の残した文化を後世に伝え、現代のわれわれが継承していくという責務を果たすため、さまざまな開発に対して発掘調査を行い『泉南市遺跡群発掘調査報告書』としていち早く成果を公表させて頂いております。本書により、最新調査データを知って頂くと同時に、そこから垣間見る先人の残した文化や歴史を感じて頂ければ幸いと存じます。

さらに平成9年4月に一般開放が始まって約7年、平成10年7月に展示室がオープンして約6年が経過しました泉南市埋蔵文化財センター（古代史博物館）におきましては、様々な試行錯誤を重ね、海会寺跡のガイダンス、重要文化財「海会寺跡出土遺物」の展示のみならず、講座等のイベント、体験学習、学校教育機関への協力を実施するなど本市における歴史情報の発信基地として着実に成果を上げ、多くの市民の皆様方に文化財を身近に感じていただいております。

これもひとえに皆様方のご支援の賜物と深く感謝申し上げますと同時に、今後とも埋蔵文化財センターを核とした本市の文化財保護行政を強力に推進して行く所存であります。

最後になりましたが、今後とも関係諸機関の方々には、より一層のご協力、ご指導を賜りますようお願い申し上げます。

平成16年3月

泉南市教育委員会
教育長 梶本邦光

例 言

1. 本書は、泉南市教育委員会が平成15年度国庫補助事業として計画し、生涯学習課が担当・実施した泉南市遺跡群の緊急発掘調査事業の報告書である。
2. 調査は、泉南市教育委員会生涯学習課、石橋広和・河田泰之を担当者とし、平成15年4月1日に着手し、平成16年3月31日に終了した。なお、本書に掲載している内容は、平成15年1月1日から平成15年12月31日までのものである。
3. 調査及び整理の実施にあたっては、江尻美代子、蒲生徹幸、蔵田弘幸、田上真理、富 愛、藤野 渉、真鍋紀美子諸君らの協力を得た。
4. 本書の執筆・編集は、石橋・河田が行った。執筆の分担は目次に記した。
5. 現地調査における写真撮影は各担当者が行い、出土遺物の写真撮影は、江尻・真鍋が行った。
6. 調査における出土遺物及び図面、写真などの諸記録は、泉南市埋蔵文化財センターにおいて保管している。広く利用されることを望むものである。

凡 例

1. 各調査区には、個別の番号をつけている。番号の基本構成は、「遺跡略称（記号）－年度－通し番号」である。遺跡の略称は、男里遺跡－ON、男里北遺跡－ONN、戎畑遺跡－EB、幡代遺跡－HT、岡中遺跡－OK、中小路西遺跡－NKW、岡田遺跡－OKD、兎田遺跡－USである。調査年度をあらわす場合、元号年度は西暦年度に読み替え、上位2桁を省略して表現している。
2. 図中の方位は、PL. 1・2では真北を、各調査区位置図・地形図では国土座標VI系にもとづく座標北を、各調査区平面図では磁北をあらわしている。
3. 図版中に示したレベル高は、T. P. + (m)の数値を使用しているが、T. P. +は省略している。
4. 本書で扱う地形分類図は、豊田兼典氏が作成した。(PL. 2)
5. 遺構名称は、アルファベットと任意の数列の組合せで表している。SD－溝、SX－性格不明遺構、Pit－ピット。
6. 図示する遺物の断面を、縄文土器・土師器－白抜き、須恵器－黒塗り、瓦器－トーンのように塗り分けている。
7. 出土遺物の番号は、遺跡毎に通し番号を付した。遺物実測図および挿図と写真図版では、遺物番号は統一している。また、同一挿図内および同一写真図版内で複数の遺跡の遺物が存在する場合、番号の前に遺跡の略称を付している。

目 次

第1章 調査の経過	(石橋)	1
第2章 男里遺跡の調査		6
第1節 既往の調査	(河田)	6
第2節 03-1区の調査	(河田)	8
第3節 03-2区の調査	(河田)	8
第4節 03-3区の調査	(河田)	9
第5節 03-4区の調査	(石橋)	10
第6節 03-5区の調査	(河田)	10
第7節 03-6区の調査	(河田)	11
第3章 戎畑遺跡の調査	(河田)	13
第1節 既往の調査		13
第2節 02-2区の調査		13
第3節 02-3区の調査		14
第4章 幡代遺跡の調査	(河田)	16
第1節 既往の調査		16
第2節 03-1区の調査		17
第3節 03-2区の調査		17
第4節 02-3区の調査		18
第5章 岡中遺跡の調査	(河田)	20
第1節 既往の調査		20
第2節 02-3区の調査		21
第6章 中小路西遺跡の調査	(河田)	22
第1節 既往の調査		22
第2節 02-1区の調査		22
第7章 岡田遺跡の調査	(河田)	24
第1節 既往の調査		24
第2節 03-1区の調査		24
第3節 03-2区の調査		24
第8章 兎田遺跡の調査	(河田)	26
第1節 既往の調査		26
第2節 03-1区の調査		26
第9章 まとめ	(河田)	28
報告書抄録		巻末

挿 図 目 次

第1図	男里遺跡・戎畑遺跡調査区位置図	7
第2図	男里遺跡03-1区地形図	8
第3図	男里遺跡03-1区・岡中遺跡02-3区出土遺物	8
第4図	男里遺跡03-2区地形図	9
第5図	男里遺跡03-3区地形図	9
第6図	男里遺跡03-4区地形図	10
第7図	男里遺跡03-5区・03-6区地形図	11
第8図	戎畑遺跡02-2区地形図	13
第9図	戎畑遺跡02-3区地形図	14
第10図	戎畑遺跡02-3区出土遺物	15
第11図	幡代遺跡調査区位置図	16
第12図	幡代遺跡03-1区地形図	17
第13図	幡代遺跡03-2区地形図	18
第14図	幡代遺跡02-3区地形図	18
第15図	岡中遺跡調査区位置図	20
第16図	岡中遺跡02-3区地形図	20
第17図	中小路西遺跡02-1区地形図	22
第18図	岡田遺跡・中小路西遺跡調査区位置図	23
第19図	岡田遺跡03-1区地形図	24
第20図	岡田遺跡03-2区地形図	25
第21図	岡田遺跡03-2区出土遺物	25
第22図	兎田遺跡調査区位置図	26
第23図	兎田遺跡03-1区地形図	26
第24図	男里北遺跡調査区位置図	27

表 目 次

第1表	平成15年発掘および試掘調査届出一覧表	2
第2表	発掘調査一覧表	3
第3表	試掘調査一覧表	4
第4表	立会調査一覧表	5
第5表	文化財一覧表	30

図 版 目 次

- P L. 1 泉南地域の文化財
- P L. 2 泉南地域の地形分類
- P L. 3 男里遺跡、戎畑遺跡調査区
- P L. 4 幡代遺跡、岡中遺跡、中小路西遺跡、岡田遺跡、兎田遺跡調査区
- P L. 5 男里遺跡03-1・2・3区
- P L. 6 男里遺跡03-4・5・6区
- P L. 7 戎畑遺跡02-2・3区、幡代遺跡03-1区
- P L. 8 幡代遺跡03-2・02-3区、岡中遺跡02-3区
- P L. 9 中小路西遺跡02-1区、岡田遺跡03-1・2区
- P L. 10 兎田遺跡03-1区、男里遺跡03-1区・戎畑遺跡02-3区・岡中遺跡02-3区・岡田遺跡03-2区出土遺物

泉南市遺跡群発掘調査報告書X XI

第1章 調査の経過

大阪府南部に位置する泉南市は、北を大阪湾、南を和泉山脈、東西を樫井川、男里川・金熊寺川に囲まれており山間部から段丘面、沖積地、海岸などすべての地形的条件を備えており、先土器時代から近世にいたる様々な遺跡が残されている。これらが特に周知されだしたのは、関西国際空港建設から開港ごろであり、当時市域の開発は急激に増大し、調査件数も一挙に増加し様々な成果が得られることとなった。その後、十年近くが経過しかつてほどの大規模開発は影を潜めるものの、小規模な開発や個人住宅建設に伴う発掘調査は絶え間なく行われ、市域における埋蔵文化財のデータはいっそうの充実を得ることとなっている。

このような状況下、今年度本市において第2表のとおり発掘調査が行われた。このうち本書の本文中において報告する遺跡数は7遺跡で、調査件数は全部で16件である。毎年の傾向であるが、今年度も大半を小規模な調査が占める結果となっている。以下、それぞれの遺跡について調査の経過をみてみたい。

男里遺跡は、市域最大規模の遺跡で、先土器時代から近世まで幅広い時代が確認されている。他の遺跡同様に、近年やや調査件数が減少したものの本遺跡が最も多く調査が行われた遺跡であることには変わりはない。今年度は遺跡の北、東部縁辺部を中心に7件の調査が行われ、このうち個人住宅に伴う調査の6件を報告している。

戎畑遺跡は、男里遺跡の北部、男里川右岸の沖積段丘上に立地する遺跡である。平成7～8年度に区画整理に伴う大規模な調査が行われ、平安時代から中世の大集落が確認されている。以降この区画整理の行われた地域に小規模な調査が継続して行われ、本年度は昨年度未報告分2件の調査を報告している。

幡代遺跡は、金熊寺川右岸の現在の幡代集落を中心とする遺跡である。集落部分の住宅の建て替え等で毎年着実に調査が行われている。今年度は現集落内の調査を2件と昨年度未報告分1件を報告している。

岡中遺跡は、平成2年度に開発に伴う試掘調査において周知された遺跡である。その後、小規模な調査が毎年着実に行われてきた。今年度は現在の岡中集落の中心部分で行われた1件の調査を報告している。

中小路西遺跡は、樫井川左岸地域の広大な段丘面上に立地する遺跡である。今年度は遺跡東縁辺部の1件の調査を報告している。

岡田遺跡は、同じく樫井川左岸の段丘面上に立地し、男里遺跡に次ぐ市域第2番の規模を持つ遺跡である。発見以来、ほぼ毎年調査が行われており、今年度は遺跡のほぼ中心部分で2件の調査が行われた。

兎田遺跡は、大半が現在の兎田集落と重なっており、ほとんど遺跡の内容は知られていない。今年度は遺跡の北辺部で1件の調査が行われた。

第1表 平成15年発掘および試掘調査届出一覧表

平成15年12月31日現在

年 月	発 掘		試 掘		合 計	
	件 数	面積 (㎡)	件 数	面積 (㎡)	件 数	面積 (㎡)
15年・1	1	359.93	3	10,754.96	4	11,114.89
2	3	1,258.55	3	8,401.64	6	9,660.19
3	6	4,397.01	0	0.00	6	4,397.01
4	3	495.70	5	29,437.26	8	29,932.96
5	3	23,906.99	3	4,739.66	6	28,646.65
6	1	188.35	2	3,384.78	3	3,573.13
7	3	39,081.57	5	7,259.39	8	46,340.96
8	6	2,334.77	1	496.01	7	2,830.78
9	4	378.43	1	825.84	5	1,204.27
10	0	0.00	1	1,645.51	1	1,645.51
11	4	2,523.52	3	4,040.89	7	6,564.41
12	3	378.56	2	3,691.01	5	4,069.57
合 計	37	75,303.38	29	74,676.95	66	149,980.33

第2表 発掘調査一覧表

平成15年12月31日現在

No.	遺跡名	地区名	位 置	面積 (㎡)	用途	調査年月	備 考	
1	男里遺跡	03-1区	男里	171.56	個人住宅	15年6月	本書掲載	⑮-2
2	男里遺跡	03-2区	樽井	63.41	個人住宅	15年9月	同上	⑮-20
3	男里遺跡	03-3区	馬場	731.80	介護保険居宅サービス事業所	15年5月	本書掲載(確認調査)	⑭-36
4	男里遺跡	03-4区	男里	176.25	個人住宅	15年5月	本書掲載	⑮-3
5	男里遺跡	03-5区	男里	498.61	個人住宅	15年4月	同上	⑭-43
6	男里遺跡	03-6区	男里	100.08	個人住宅	15年7月	同上	⑮-4
7	男里遺跡	03-7区	男里	38,800.00	農業関係	15年10月~12月	別書掲載(府教育委員会の調査・第1図)	⑮-8
8	男里遺跡	02-9区	男里	1,756.76	宅地造成	15年1月	トレンチ3カ所設定したが遺構・遺物は確認されなかった。(確認調査・第1図)	⑭-33
9	男里北遺跡	03-1区	男里	23,656.75	工 場	15年6月	トレンチ2カ所設定したが遺構・遺物は確認されなかった。(確認調査・第24図)	⑮-5
10	戎畑遺跡	02-2区	樽井	359.93	共同住宅	15年3月	本書掲載(確認調査)	⑭-34
11	戎畑遺跡	02-3区	樽井	100.00	個人住宅	15年3月	本書掲載	⑭-41
12	幡代遺跡	03-1区	幡代	56.62	個人住宅	15年9月	同上	⑮-13
13	幡代遺跡	03-2区	幡代	188.35	個人住宅	15年9月	同上	⑮-7
14	幡代遺跡	03-3区	幡代	3,593.87	老人福祉施設	15年5月	別書掲載(第11図)	⑭-29
15	幡代遺跡	02-3区	幡代	262.73	個人住宅	15年3月	本書掲載	⑭-39
16	岡中遺跡	02-3区	信達岡中	361.41	個人住宅	15年3月	同上	⑭-37
17	中小路西遺跡	02-1区	信達市場	499.70	個人住宅	15年3月	同上	⑭-40
18	中小路西遺跡	03-1区	信達市場	104.28	店 舗	15年12月	トレンチ1カ所設定したが遺構・遺物は確認されなかった。(確認調査・第18図)	⑮-21
19	岡田遺跡	02-1区	岡田	190.10	個人住宅	15年7月	本書掲載	⑮-9
20	岡田遺跡	03-2区	岡田	147.89	個人住宅	15年4月	同上	⑮-1
21	兎田遺跡	03-1区	兎田	217.54	個人住宅	15年12月	同上	⑮-24

第3表 試掘調査一覧表

平成15年12月31日現在

No.	遺跡名	位 置	面積 (㎡)	用 途	調査年月日	備 考
1	範囲外	信達市場	94.75	分譲住宅	平成15年1月20日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
2	範囲外	中小路	2,154.21	グループホーム	平成15年2月4日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
3	範囲外	樽井	8,750.00	老人集会所	平成15年2月19日	トレンチ5カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
4	範囲外	信達牧野	6,879.30	宅地造成	平成15年3月11日	トレンチ3カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
5	範囲外	馬場	467.73	宅地造成	平成15年4月18日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
6	範囲外	馬場	1,073.44	貸倉庫	平成15年4月28日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
7	範囲外	樽井	1,808.87	宅地造成	平成15年6月3日	トレンチ3カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
8	範囲外	男里	25,429.92	工場	平成15年6月6日	トレンチ2カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
9	範囲外	信達市場	1,858.00	宅地造成	平成15年7月16日	トレンチ2カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
10	範囲外	信達牧野	1,635.83	長屋住宅	平成15年7月25日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
11	範囲外	樽井	411.72	分譲住宅	平成15年8月4日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
12	範囲外	樽井	2,127.27	自己用倉庫	平成15年8月28日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
13	範囲外	信達大苗代	673.12	共同住宅	平成15年8月29日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
14	範囲外	男里	496.01	店舗	平成15年8月29日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
15	範囲外	岡田	825.84	宅地造成	平成15年9月26日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
16	範囲外	樽井	2,989.83	店舗	平成15年11月10日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。
17	範囲外	信達市場	2,467.76	宅地造成	平成15年12月16日	トレンチ1カ所設定したが、遺構・遺物は確認されなかった。

第4表 立会調査一覧表

平成15年12月31日現在

No.	遺跡名	位置	面積 (㎡)	用途	調査年月日	備考
1	新家オドリ山南遺跡・新家古墳群	新家	395.63	宅地造成	平成15年3月4日	遺構・遺物は確認されなかった。
2	男里遺跡	男里	150.16	個人住宅	平成15年7月18日	遺構・遺物は確認されなかった。
3	男里遺跡	樽井	132.66	店舗	平成15年8月11日	遺構・遺物は確認されなかった。
4	男里遺跡	男里	132.94	分譲住宅	平成15年9月16日	遺構・遺物は確認されなかった。
5	男里遺跡	男里	132.66	分譲住宅	平成15年9月16日	遺構・遺物は確認されなかった。
6	本田池遺跡	樽井	137.41	個人住宅	平成15年9月19日	遺構・遺物は確認されなかった。
7	男里遺跡	男里	133.19	分譲住宅	平成15年9月24日	遺構・遺物は確認されなかった。
8	男里遺跡	男里	176.61	分譲住宅	平成15年9月25日	遺構・遺物は確認されなかった。

第2章 男里遺跡の調査

第1節 既往の調査（P L. 1・2）

遺跡は市域北西端の男里川右岸に位置し、現在の男里集落および馬場集落とその間の耕作地がその範囲となる。これまでの調査は、男里・馬場両集落内では宅地開発などに伴う小規模な調査、両集落の間に位置する耕作地では府道新設および双子池堤体改修に伴う大規模な調査が行われている。

旧石器時代および縄文時代中期から後期の遺物が確認されているが、いずれも遺構に伴うものではない。ナイフ形石器が双子下池で採集されているほか、縄文時代中期末から後期初頭の土器が遺跡南東部の府道新設に伴う調査で確認されている^①^②。

縄文時代晩期から弥生時代前期の遺構・遺物が、遺跡北西部および遺跡中央で確認されている。遺跡北西部の現在の男里集落北東側では、縄文時代晩期のピット^③、谷^④が検出されている。遺跡中央の双子上池堤体改修に伴う調査では縄文時代晩期の深鉢と弥生時代前期の壺がほぼ同一の層位から確認されているほか^⑤、弥生時代前期の甕が出土した包含層が確認されている^⑥。いずれの土器も出土した層位には焼土や炭が含まれていることから、両調査区に隣接して当該時期の集落の存在が想定できる。

弥生時代中期前葉の遺構が、遺跡北西部で確認されている。現在の男里集落の北東端では、谷^⑦が確認されている。なお、先述の縄文時代晩期の谷埋土の上層にあたる。弥生時代中期中葉から後葉の遺構が、遺跡南東部で確認されている。府道新設に伴う調査で、堅穴住居・掘立柱建物・木棺墓などが確認されており、集落域の範囲もほぼ限定できる^⑧。弥生時代後期末から古墳時代初頭の遺構が、遺跡中央部で確認されている^⑨。双子池堤体改修に伴う調査で流路、方形堅穴住居^⑩が検出されている。

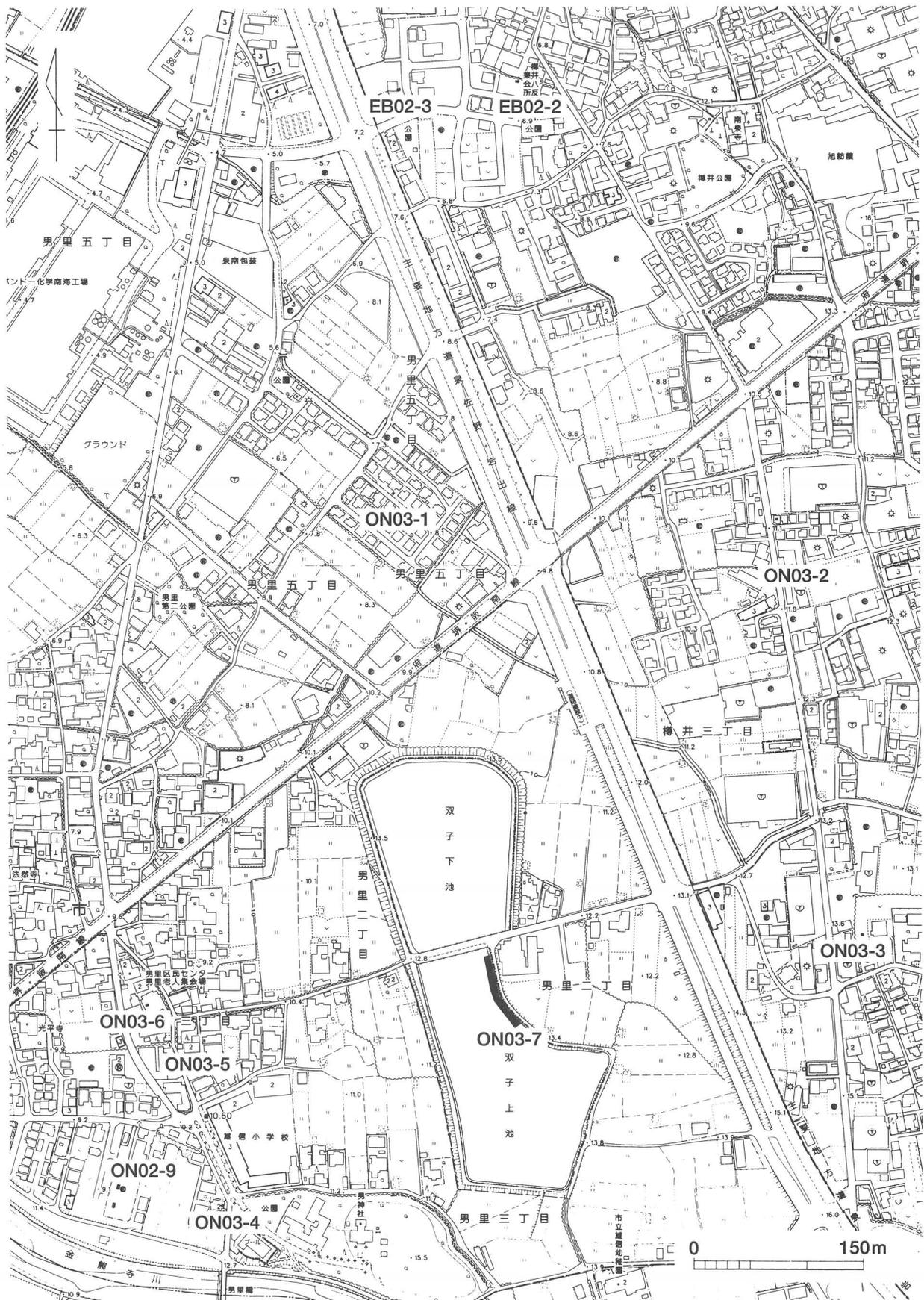
古墳時代後期の遺構が、遺跡北西部で確認されている。現在の男里集落北東端にあたり、堅穴住居などが検出されている^⑪。

飛鳥時代から奈良時代の遺構が、遺跡中央部および東部で確認されている。双子池堤体改修に伴う調査では流路およびしがらみ^⑫、双子上池西側で掘立柱建物^⑬、府道新設に伴う調査およびその周辺における調査で堅穴住居・掘立柱建物・土坑などが検出されている^⑭。

平安時代から室町時代にかけての遺構は遺跡全域にひろがるが、そのほとんどが耕作痕であり、集落に関連する遺構に限定すると北東部、北西部、南部に限定される。平安時代では、遺跡北東部における府道新設に伴う調査で掘立柱建物が検出されている^⑮。平安時代末から室町時代では、遺跡北西部および遺跡南東部で掘立柱建物などが確認されている^⑯。

さらに、これらの中世集落に対応するであろう寺院跡が確認されている。遺跡北西部のものには光平寺跡^⑰、遺跡南東部のものには府道新設に伴う調査でその存在が指摘されている「安良寺」^⑱である。

近世の遺構は耕作痕などを除けばほとんど確認されていない。現在とほぼ同じ景観であったのであろう。

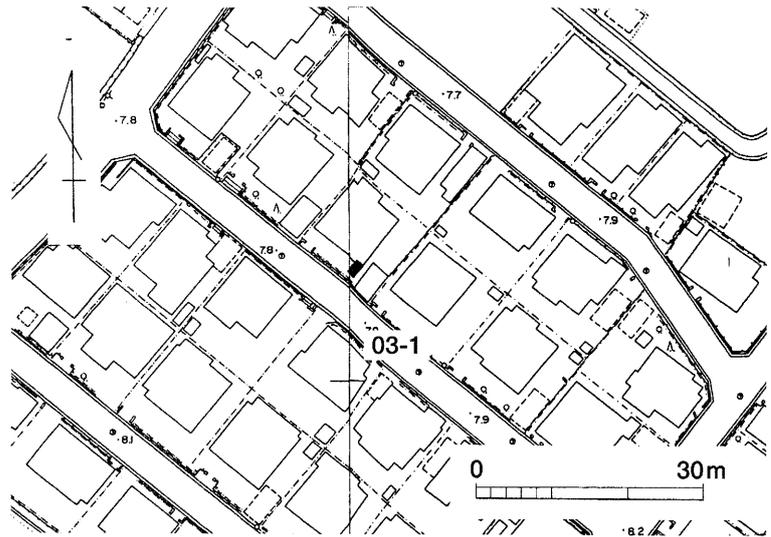


第1図 男里遺跡・戎畑遺跡調査区位置図

第2節 03-1区の調査

1. 位置 (第1・2図)

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では氾濫原にあたる。現在の男里集落と樽井集落の間に位置し、宅地化されている箇所にあたる。周辺では、いずれも時期不明であるが、98-4区で流路^①、96-11区でピット^②が確認されている。トレンチは1箇所を設定した。



第2図 男里遺跡03-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

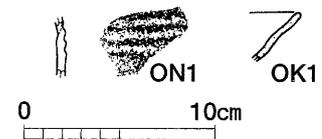
(P L. 3・5)

盛土は除去されていた。青灰色シルト(1層・約20cm)を除去すると、灰褐色シルト(2層・約30cm)、黒褐色粘土(3層・約30cm)と続き、礫混じり黒褐色粘土(4層・30cm〜)にいたる。地山は確認していない。

1・2層は耕作土、3層以下は自然堆積と考えられる。精査は3層上面で行い、耕作痕を確認した。遺物は2層から土師器、3層からサヌカイト剥片と縄文土器が出土した。

3. 遺物 (第3図、P L. 10)

1は器壁の磨耗が激しく、内外面とも調整は不明。外面に3条の凹線がみられる。胎土は粗く1mm以下の白色粒を多く含む。断面に粘土紐の接合痕がみられる。器壁が5mm程度でやや薄い。胎土の荒さと、出土した層位から縄文土器と判断したが、帰属時期は判断できない。なお、図示していないが、3層からは1と同様に胎土が粗い土器が多数出土している。



第3図 男里遺跡03-1区・岡中遺跡02-3区出土遺物

第3節 03-2区の調査

1. 位置 (第1・4図)

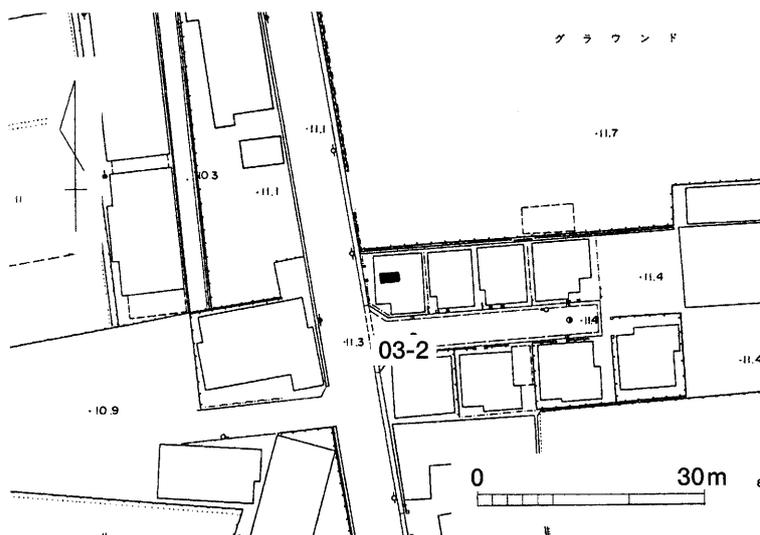
調査区は、遺跡の北東部で現在の馬場集落の北西に位置する。地形分類では沖積段丘にあたり、以前耕作地として利用されていたが現在は宅地化がすすむ。周辺では南西約50mの95-11区をはじめとする同一宅地内で、瓦器などが出土する中世の包含層が確認されている^②。トレンチは1箇所を設定した。

2. 層位と遺物の出土状況

(P.L. 3・5)

盛土(1層・約60cm)を除去すると、青灰色シルト(2層・約10cm)、褐灰色シルト(3層・約20cm)、茶褐色シルト(4層・約10cm)、黒褐色シルト(5層・約30cm)と続き、黄褐色シルト(6層)の地山にいたる。

1層は宅地化に伴う盛土、2・3層は耕作土、4～6層は自然堆積と考えられる。3・5層で土師質土器の細片を確認したが、小片のため時期は判断できない。3・4・5・6層上面で精査を行い、6層上面においてピットを2基検出した。



第4図 男里遺跡03-2区地形図

3. 遺構と遺物 (P.L. 5)

6層上面で確認したピットは、径20cm、深さ10cm程度のものである。埋土はいずれも茶褐色シルトで遺物は出土していない。平面検出の際輪郭がはっきりせず、植物痕など人為的な遺構ではない可能性が高い。

第4節 03-3区調査

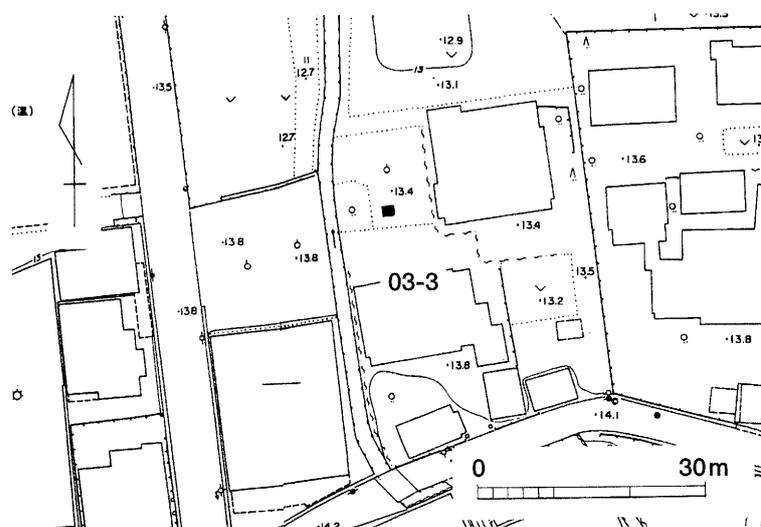
1. 位置 (第1・5図)

調査区は遺跡の東部で、地形分類では沖積段丘にあたる。現在の馬場集落南端にあたり、同集落外は耕作地として利用されている。周辺では、西側約20mの89-1区で中世の土坑が確認されている²²。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況

(P.L. 3・5)

盛土(1層・約50cm)を除去すると、黒褐色シルト(2層・約10cm)、茶褐色シルト(3層・約40cm)、茶



第5図 男里遺跡03-3区地形図

褐色シルト混じり礫（4層・約20cm）と続き、黄褐色シルト混じり礫（5層）の地山にいたる。

2層が耕作土、1・3層は盛土、4層以下は自然堆積と考えられる。3層から近代の陶磁器や瓦が出土したが、その他の層位から遺物は出土していない。

4・5層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

第5節 03-4区の調査

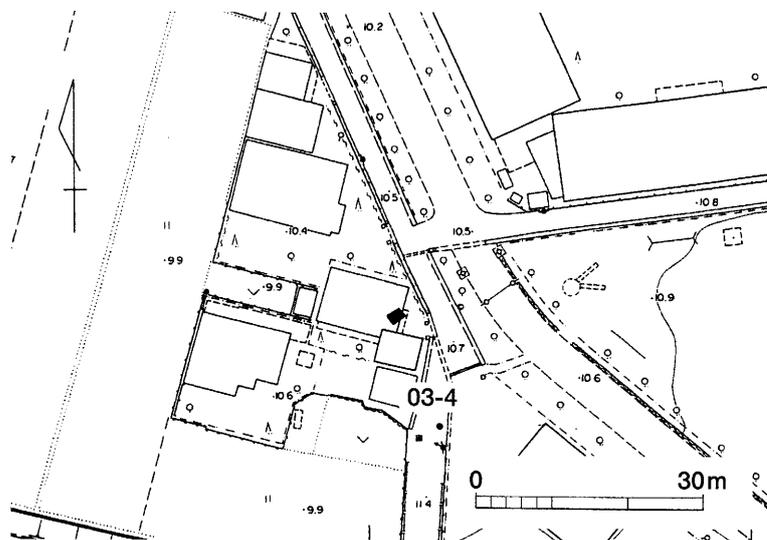
1. 位置（第1・6図）

調査区は、遺跡の南東端、男神社西方に位置し、男里川まで約50mの地点である。当該地は近世のカスミ堤が存在していたと考えられる。地形的には男里川の氾濫原上に立地するものと考えられる。

2. 層位と遺物の出土状況

(P.L. 3・6)

近代以降の整地層と考えられる暗黄褐色粘性土（約50cm）、褐色粘性土（約40cm）を除去すると河川性の堆積と考えられる粘性土を多く含んだ黄褐色砂礫層にいたる。これを約40cm掘削すると径約10cm以上の礫を多く含む暗褐色砂礫層となる。遺構・遺物は検出されなかった。



第6図 男里遺跡03-4区地形図

第6節 03-5区の調査

1. 位置（第1・7図）

調査区は、遺跡の西部で、地形分類では自然堤防にあたる。現在の男里集落南東端に位置し、調査区以東は耕作地として利用されている。周辺では、西側約20mの01-7区で8世紀代の土坑が確認されている²³。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況（P.L. 3・6）

盛土（1層・約20cm）を除去すると、暗灰色シルト（2層・約10cm）、灰色シルト（3層・約20cm）、褐灰色シルト（4層・約20cm）、灰褐色シルト（5層・約20cm）、灰褐色シルト混じり黄褐色粘土（6層・約30cm）、黄褐色シルト（7層・約20cm）と続き、灰色粗砂混じり礫（8層）の地山にいたる。

7層以下は自然堆積で、それより上層は人為的な影響を受けた二次的な層位と考えられる。

7層より上層の層位は土層観察からふたつに大別できる。

ひとつが、1～4層である。宅地として利用されて以後の盛土等の痕跡と考えられる。なお、4層がベースで9・10層が埋土であるSX01が検出されている。複数時にわたる整地が行われていたことを示すものである。

もうひとつが5・6層である。耕作地として利用された頃の層位と考えられる。このうち、6層は黄褐色粘土を主とする人為的な客土と考えられ、おそらく、水田として利用する際に漏水対策として施されたのであろう。

これらの層位の年代は、1～4層は4層で近代頃の陶磁器が出土していることから近代以降、6層から瓦器などが出土していることから中世以降の時期がそれぞれ想定できる。



第7図 男里遺跡03-5区・03-6区地形図

第7節 03-6区の調査

1. 位置 (第1・7図)

調査区は、遺跡の西部で、地形分類では自然堤防にあたる。現在の男里集落南部にあたり、住宅が密集している。周辺では、南西側約20mの01-7区で8世紀代の土坑が確認されている^②。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況 (PL. 3・6)

褐灰色シルト(1層・約70cm)を除去すると、焼土混じり褐色シルト(2層・約20～60cm)、褐灰色シルト(3層・約30cm)と続き、黄褐色シルト(4層)の地山にいたる。

1・2層は盛土、3層が耕作土、4層が自然堆積と考えられる。2層は焼土や近世以降の瓦片が大量に混じるが、その他の層位からは遺物は出土しなかった。

4層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかったものの、01-7区で確認された遺構面とレベルがほぼ同じで土層も類似することから、8世紀代の遺構面と同一の層位と考えられる。

註 ① 大阪府教育委員会「既往の調査」『男里遺跡発掘調査概要・VI』(2002)
② (財)大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』(2001)
③ 泉南市教育委員会「男里遺跡95-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIII』(1996)

- ④ 泉南市教育委員会「E区の調査」『市道男里北線改良に伴う男里遺跡発掘調査報告書』（2002）
- ⑤ 大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VI』（2002）
- ⑥ 本書第1図の03-7区。大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VIII』（2004）
- ⑦ ④と同じ。
- ⑧ ②と同じ。
- ⑨ 大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・I』（1997）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・II』（1997）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VI』（2002）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VII』（2003）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VIII』（2004）
- ⑩ 大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VIII』（2004）
- ⑪ 泉南市教育委員会『市道男里北線改良に伴う男里遺跡発掘調査報告書』（2002）
- ⑫ 大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・I』（1997）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・II』（1997）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VI』（2002）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VII』（2003）
大阪府教育委員会『男里遺跡発掘調査概要・VIII』（2004）
- ⑬ 堀田啓一「原始の泉南」『泉南市史 通史編』泉南市史編纂委員会（1987）
- ⑭ （財）大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』（2001）
泉南市教育委員会「男里遺跡96-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』（1997）
- ⑮ （財）大阪府埋蔵文化財協会『男里遺跡』（1994）
- ⑯ 泉南市教育委員会『市道男里北線改良に伴う男里遺跡発掘調査報告書』（2003）
（財）大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』（2001）
泉南市教育委員会が行った確認調査（90-10区）。泉南市教育委員会『泉南市遺跡群発掘調査報告書VIII』（1991）に位置のみ表示。
- ⑰ 堀田啓一「古代の泉南」『泉南市史 通史編』泉南市史編纂委員会（1987）
- ⑱ （財）大阪府文化財調査研究センター『男里遺跡発掘調査資料集』（2001）
- ⑲ 泉南市教育委員会「男里遺跡01-7区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XX』（2003）
- ⑳ 泉南市教育委員会「男里遺跡96-11区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』（1997）
- ㉑ ⑲と同じ。
- ㉒ 泉南市教育委員会「男里遺跡89-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書VII』（1990）
- ㉓ ⑲と同じ。
- ㉔ ⑲と同じ。

第3章 戎畑遺跡の調査

第1節 既往の調査（PL. 1・2）

遺跡は現在の樽井集落の西側に位置し、その大半が土地区画整備に伴い宅地化されているが、それ以前は耕作地として利用されていた。なお、遺跡内におけるこれまでの調査は、土地区画整備が行われた宅地内における調査がほとんどである。

1995年度の土地区画整備に伴う調査（95-1区）では、10世紀代、12世紀後半から15世紀にかけての集落などが確認されている^①。

10世紀代には幅約4m、深さ約0.5m、検出長約100mの灌漑水路が機能していたことが確認されている。この灌漑水路は13世紀代には完全に埋没する。

12世紀後半から15世紀には、掘立柱建物・土坑墓・火葬土坑・真蛸壺焼成土坑などが確認されている。掘立柱建物は15棟確認されており、2・3間程度のものと、5・6間程度のものがみられる。土坑墓は19基確認されている。おおよそ径2mほどの平面楕円形を呈し、自然石や、瓦器碗・土師器小皿・鉄クギ・和鏡・灰釉陶器などが出土している。火葬土坑は1基確認されている。長さ約2m、幅約1m、平面長方形で、幅0.1mほどの溝が遺構長軸に平行して掘られており、被熱による赤変が顕著である。真蛸壺焼成土坑は20基確認されている。そのほとんどが直径約2mほどの平面円形を呈するもので、うち2基は平面長方形で瓦窯にみられるようなロストル構造をもつことが確認されている。

第2節 02-2区の調査

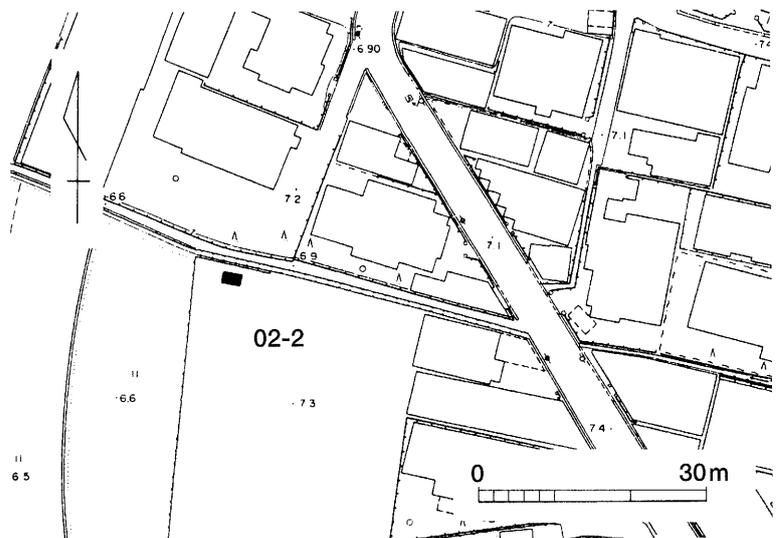
1. 位置（第1・8図）

調査区は、遺跡の北部で、中世の集落が確認された95-1区と同一の宅地内に位置する。地形分類では、沖積段丘もしくは氾濫原および谷底低地にあたる。95-1区の調査では、本調査区周辺において真蛸壺焼成土坑やピットが検出されているほか、西側約20mで鎌倉時代から室町時代頃と考えられる掘立柱建物が確認されている^②。トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況

(PL. 3・7)

盛土（1層・約50cm）を除去すると、灰褐色シルト（2層・約10cm）、



第8図 戎畑遺跡02-2区地形図

茶褐色シルト（3層・約30cm）と続き、礫混じり黄褐色シルト（4層）にいたる。

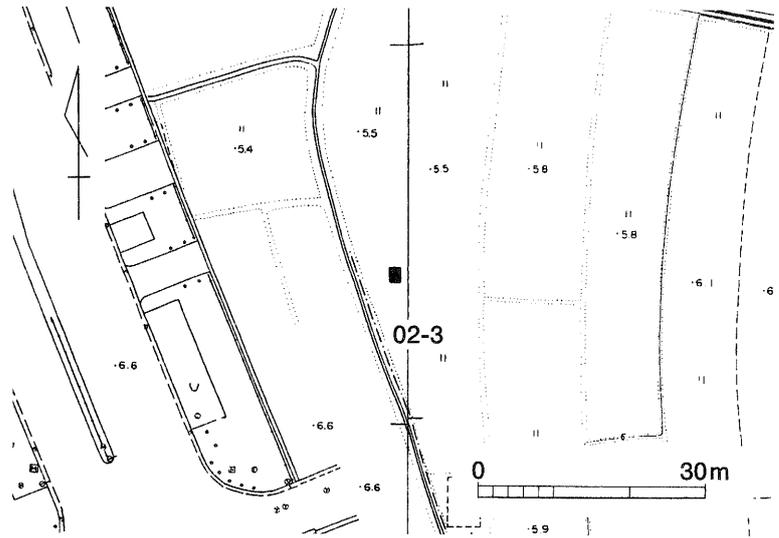
1層は宅地化に伴う盛土で、2・3層が旧耕作土と考えられる。3・4層上面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。なお、95-1区で確認された遺構面に対応するのは、4層上面と考えられる。

上記の層位のうち、遺物が出土したのは3層のみであった。土師質の土器片が出土したが、細片のため、時期は判断できない。

第3節 02-3区の調査

1. 位置（第1・9図）

調査区は、遺跡の北部で、中世の集落が確認された95-1区と同一の宅地内に位置する。地形分類では沖積段丘もしくは氾濫原および谷底低地にあたる。95-1区の調査では、本調査区周辺において平安時代頃の灌漑水路と考えられる溝や、西側約20m付近で鎌倉時代から室町時代頃のものと考えられる掘立柱建物が確認されている^③。トレンチは1箇所設定した。



第9図 戎畑遺跡02-3区地形図

2. 層位と遺物の出土状況（P.L. 3・7）

盛土（1層・約130cm）を除去すると、灰褐色シルト（2層・約10cm）、黒褐色シルト（3層・約20cm）と続き、黄褐色シルト（4層）にいたる。

1層は宅地化に伴う盛土で、2・3層が旧耕作土と考えられる。3・4層上面で精査を行い、このうち4層上面でピットや溝状の遺構を確認した。

このうち、3層から土師質の土器片や瓦器が出土している。95-1区で確認された遺構面に対応するのは4層上面にあたる。

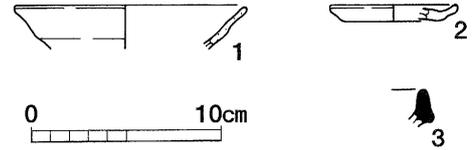
3. 遺構（P.L. 3・7）

4層上面でピットと溝を検出した。いずれの遺構からも遺物は出土していない。本調査区の遺構面である4層は、95-1区で確認された遺構面と対応すると考えられ、今回確認したピットは95-1区で確認されている掘立柱建物の一部である可能性が想定できる。

S D 01 屈曲点をもつ溝状の遺構である。幅は30~50cm、深さは15cm程度。埋土は礫混じり暗灰褐色シルトである。

P i t 01 径約20cm、深さ約15cm。柱痕は確認されなかった。埋土は黒褐色シルト。

P i t 02 径約20cm、深さ約5cm。柱痕は確認されなかった。埋土は黒褐色シルト。



4. 遺物 (第10図、P L. 10)

図示している遺物はいずれも3層出土のものである。この他に、図示はしていないが管状土錘や土師質真蛸壺が出土している。

1は瓦器椀である。口縁端部はヨコナデ、外面にはユビオサエがみられる。復元口径12.2cm。

2は土師器皿である。器壁の磨耗が激しく調整は不明。復元口径6.8cm。3は須恵器鉢である。口縁端部は回転ナデで仕上げ、焼成は良好。小片のため口径は不明。

第10図 戎畑遺跡02-3区出土遺物

註 ① 城野博文「泉南市戎畑遺跡の調査」『第35回大阪府下埋蔵文化財研究会資料集』（財）大阪府文化財調査研究センター（1997）

② ①と同じ。

③ ①と同じ。

第4章 幡代遺跡の調査

第1節 既往の調査（P.L. 1・2）

遺跡は金熊寺川右岸に位置し、現在の幡代集落とその東側の耕作地がその範囲となる。これまでの調査は、集落内では主に住宅建築などの小規模なもの、耕作地では府道や市道の新設などに伴う大規模なものが行われている。

これまで確認されている遺構・遺物は、中世以降のものが大半を占める。中世以前のものでは府道新設に伴う調査で、中世の遺構面である黄色土を除去した面で不定形な落ち込みが確認され弥生時代の石



第11図 幡代遺跡調査区位置図

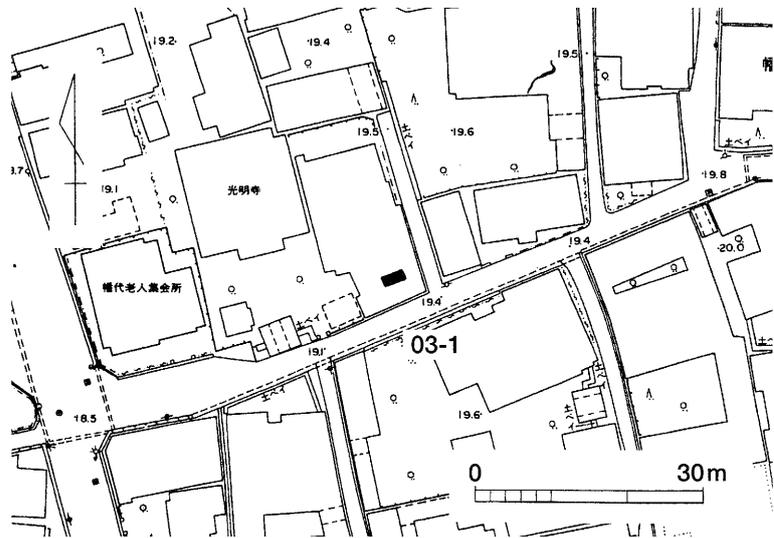
包丁が出土しているのみである^①。中世の遺構は遺跡東側の耕作地において多く確認されている。府道新設に伴う調査では鎌倉時代から室町時代の掘立柱建物や井戸^②、市道拡幅に伴う調査（92-1・93-1区）では掘立柱建物や溝、03-3区ではピット・井戸・土坑が確認されている^④。

また、特筆すべき遺物として、93-1区で製糖に用いる「瓦漏」が確認されている^⑤。18～19世紀ごろのもので、市内では男里遺跡でも出土例がある^⑥。

第2節 03-1区の調査

1. 位置（第11・12図）

調査区は、遺跡の北部、地形分類では沖積段丘に位置する。現在の幡代集落内で、周辺は建物が密集している。周辺の調査では、調査区西約20mの道路部分における調査でピットが確認されており、直上の包含層から平安時代末から室町時代のもとのとされる^⑦。トレンチは1箇所設定した。



第12図 幡代遺跡03-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

(PL. 4・7)

盛土（1層・約50～80cm）を除去すると、礫混じり灰褐色粗砂（2層・約30cm）と続き、礫混じり灰色粗砂（3層）の地山にいたる。1・2層は近代以降の盛土、3層はそれ以前の自然堆積と考えられる。

遺物は、1・2層で近代以降の陶磁器が少量出土したのみであった。3層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

なお、1・2層より人頭大の砂岩が大量に出土した。「ノヅラ積み」に用いられたものであろうか。

第3節 03-2区の調査

1. 位置（第11・13図）

調査区は、遺跡の中央部にあたり、地形分類では沖積段丘に位置する。現在の幡代集落の東端付近で、周囲は住宅が密集している。周辺の調査では、東約100mの府道新設に伴う（財）大阪府埋蔵文化財協会の調査で鎌倉時代の掘立柱建物が^⑧、南約10mの95-1区で近世の土坑が確認されている^⑨。トレンチは1箇所設定した。

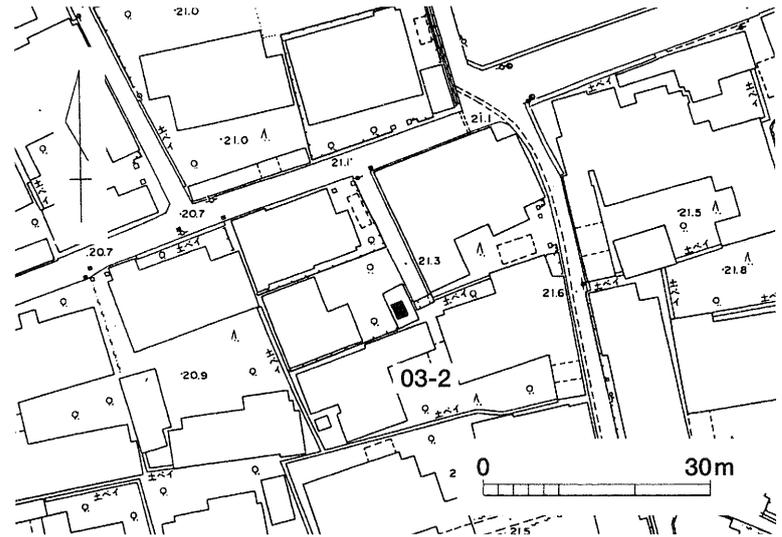
2. 層位と遺物の出土状況

(PL. 4・8)

盛土（1層・約30cm）を除去すると、礫混じり褐灰色シルト（2層・約40cm）、礫混じり灰褐色粗砂（3層・約30cm）と続き、礫混じり暗黄褐色粗砂（4層）の地山にいたる。

1・2層は近代以降の整地土、3層はそれ以前の自然堆積と考えられる。いずれの層位からも遺物は出土せず、4層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

3層以下は、河川堆積によるものであろう。遺物が出土しなかったため時期は不明であるが、金熊寺川が氾濫した際に本調査区にまでその影響が及んでいたことを示す。

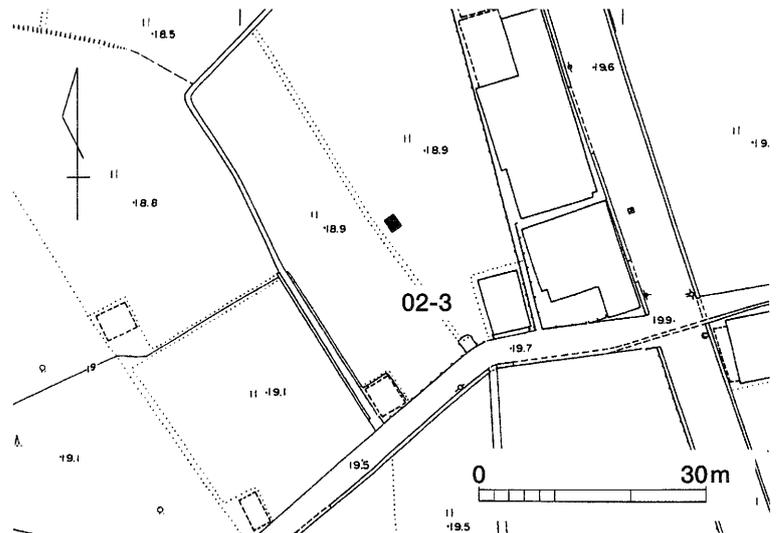


第13図 幡代遺跡03-2区地形図

第4節 02-3区の調査

1. 位置（第11・14図）

調査区は、遺跡の西部で、地形分類では沖積段丘にあたる。現在の幡代集落の南西側にあたり、耕作地がひろがる。調査区の南東約30mに位置する98-1区では遺物は出土していないものの、耕作地区割りの痕跡と考えられる「段」が確認されている^⑩。トレンチは1箇所設定した。



第14図 幡代遺跡02-3区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

(PL. 4・8)

黒褐色シルト（1層・約30cm）を除去すると、黄橙色シルト（2層・約10cm）と続き、灰褐色粗砂混じり礫（3層）にいたる。

1・2層は耕作土で、3層が耕地化以前の自然堆積と考えられる。2・3層上面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。いずれの層位からも遺物は出土しなかった。

- 註 ① 栢本 哲「幡代遺跡」『大阪府下埋蔵文化財研究会（第30回）資料』（財）大阪文化財センター
- ② ①と同じ。
- ③ 泉南市教育委員会「幡代遺跡」『泉南市文化財年報No.1』（1995）
- ④ 第11図に調査区位置のみ表示。別所掲載。
- ⑤ ③と同じ。
- ⑥ 泉南市教育委員会「D区の調査」『市道男里北線改良事業に伴う男里遺跡発掘調査報告書』（2002）
- ⑦ 泉南市教育委員会「幡代遺跡の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書V』（1988）
- ⑧ ①と同じ。
- ⑨ 泉南市教育委員会「幡代遺跡95-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅢ』（1996）
- ⑩ 泉南市教育委員会「幡代遺跡98-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅦ』（2000）

第5章 岡中遺跡の調査

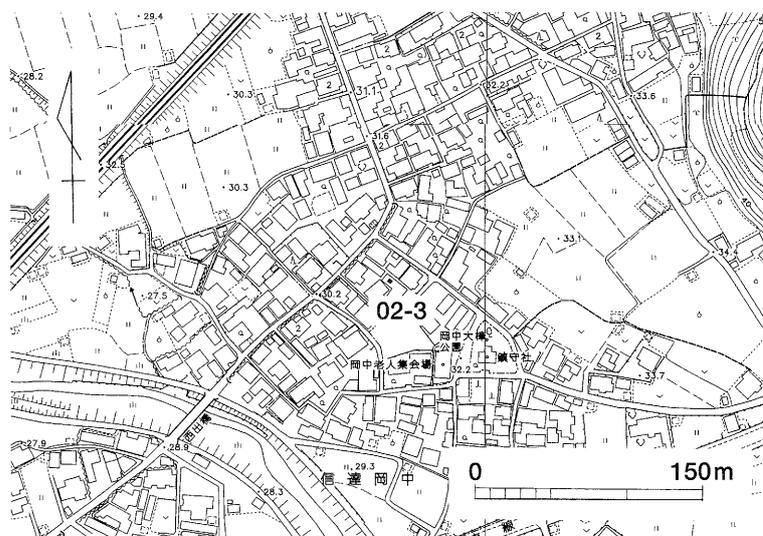
第1節 既往の調査（P L. 1・2）

遺跡は、金熊寺川右岸に位置し、その範囲は現在の岡中集落とほぼ重複する。

遺跡内の鎮守杜境内には、樹齢数百年の樟とマキの木があり、府天然記念物に指定されている。また、遺跡内を北東から南西に横断する道路は、熊野街道と考えられている^①。

確認されている遺構・遺物は中世以降のものが大半を占める。遺跡中央の鎮守杜付近では平安時代末以降の瓦や、室町時代の土坑墓が確認されており、出土遺物から寺院跡や鍛冶関連施設の存在が想定されている^②。

周辺の遺跡では、遺跡北東側に位置する林昌寺の裏山において扁平鈕式銅鐸が発見されているほか、平安時代末の林昌寺瓦窯が確認されている^③。岡中西遺跡では、14世紀の呪符が出土した井戸や、15世紀初頭の整地土や池状遺構が確認されている^④。

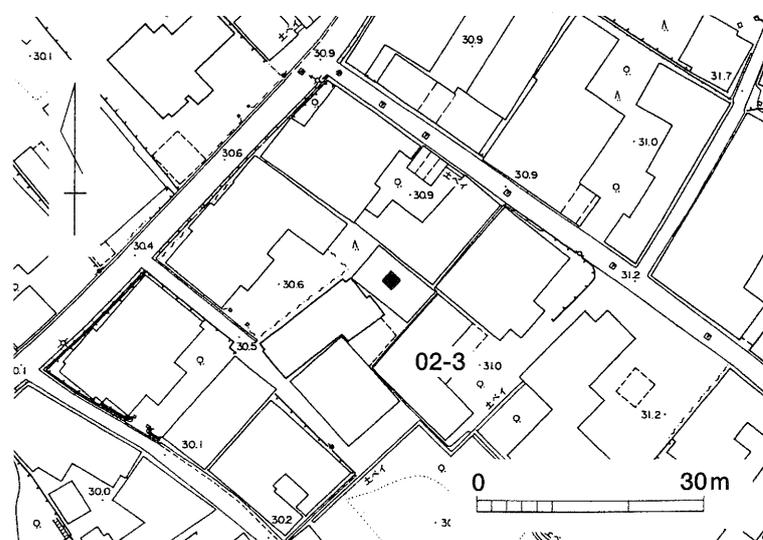


第15図 岡中遺跡調査区位置図

第2節 02-3区の調査

1. 位置（第15・16図）

調査区は、遺跡の北西部で、地形分類では沖積段丘にあたる。現在の岡中集落内に位置し、熊野街道に比定されている道路に接する。南東約50mに位置する公園新設に伴う調査^⑦では、平安時代末以降の瓦類が確認されており寺院跡の存在が想定されている。トレンチは1箇所設定した。



第16図 岡中遺跡02-3区地形図

2. 層位と遺物の出土状況 (PL. 4・8)

盛土(1層・約40cm)を除去すると、褐灰色シルト(2層・約20cm)、褐灰色粗砂混じり礫(3層・約30cm)と続き、茶褐色粗砂混じり礫(4層)にいたる。

1層は宅地化に伴う盛土で、2層以下が自然堆積と考えられる。2・3・4層上面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。

上記の層位のうち、遺物が出土したのは2層のみであった。土師器小皿、瓦器椀が出土している。

3. 遺物 (第3図、P L. 10)

1は瓦器椀である。2層から出土した。口縁端部はヨコナデ、外面にはユビオサエ、内面には横方向のヘラミガキがみられる。口径は小片のため不明。

註 ① 大阪府教育委員会『熊野・紀州街道 論考編-歴史の道調査報告書第1集-』(1987)

② 1987年度の泉南市教育委員会の調査。

③ ②と同じ。

④ 堀田啓一「原始の泉南」『泉南市史 通史編』(1987)

⑤ 泉南市教育委員会「林昌寺瓦窯」『泉南市文化財年報No.1』(1995)

⑥ (財)大阪府埋蔵文化財協会『岡中西遺跡』(1988)

⑦ 1987年度の泉南市教育委員会による調査。

第6章 中小路西遺跡の調査

第1節 既往の調査（P L. 1・2）

遺跡は、現在の中小路集落の西側に位置し、近年一部で宅地化が進むが大半は耕作地として利用されている。これまで行われた調査は、5件程度で遺跡西側における宅地開発などに伴うものである。

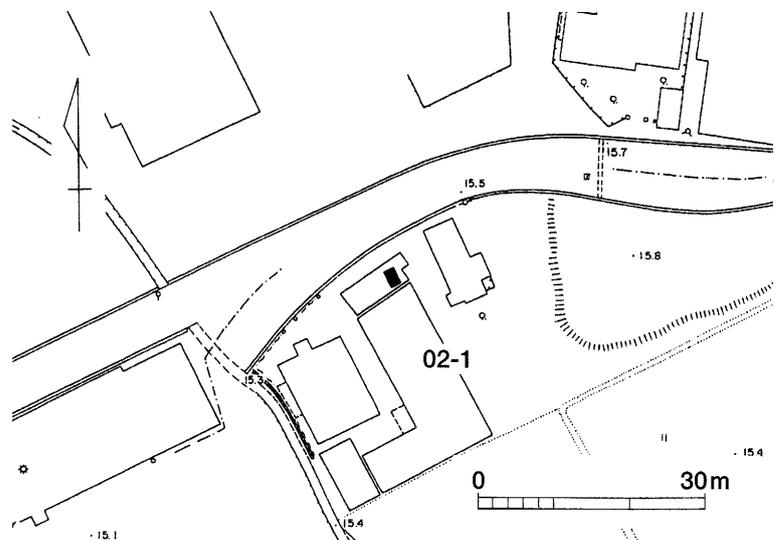
これまで確認された遺構は中世のもののみである。93-1区では鎌倉時代の溝、93-2区では中世の耕作痕やピットが確認されている。

周辺の遺跡で確認されている遺構・遺物も中世のものがほとんどである。岡田西遺跡では市道新設に伴う調査で鎌倉時代ごろの溝と耕作痕のほか室町時代の井戸^②が、新伝寺遺跡では室町時代^③、北野遺跡^④では平安時代の掘立柱建物がそれぞれ確認されている。

第2節 02-1区の調査

1. 位置（第17・18図）

調査区は、遺跡の西部で、地形分類では沖積段丘にあたる。現在の鳴滝集落の北東側にあたり、周囲には耕作地がひろがる。調査区の北東約50mに位置する93-1区では13世紀代の溝が確認されている。この溝は南西から北東に伸びるもので、灌漑水路と考えられる。トレンチは1箇所設定した。



第17図 中小路西遺跡02-1区地形図

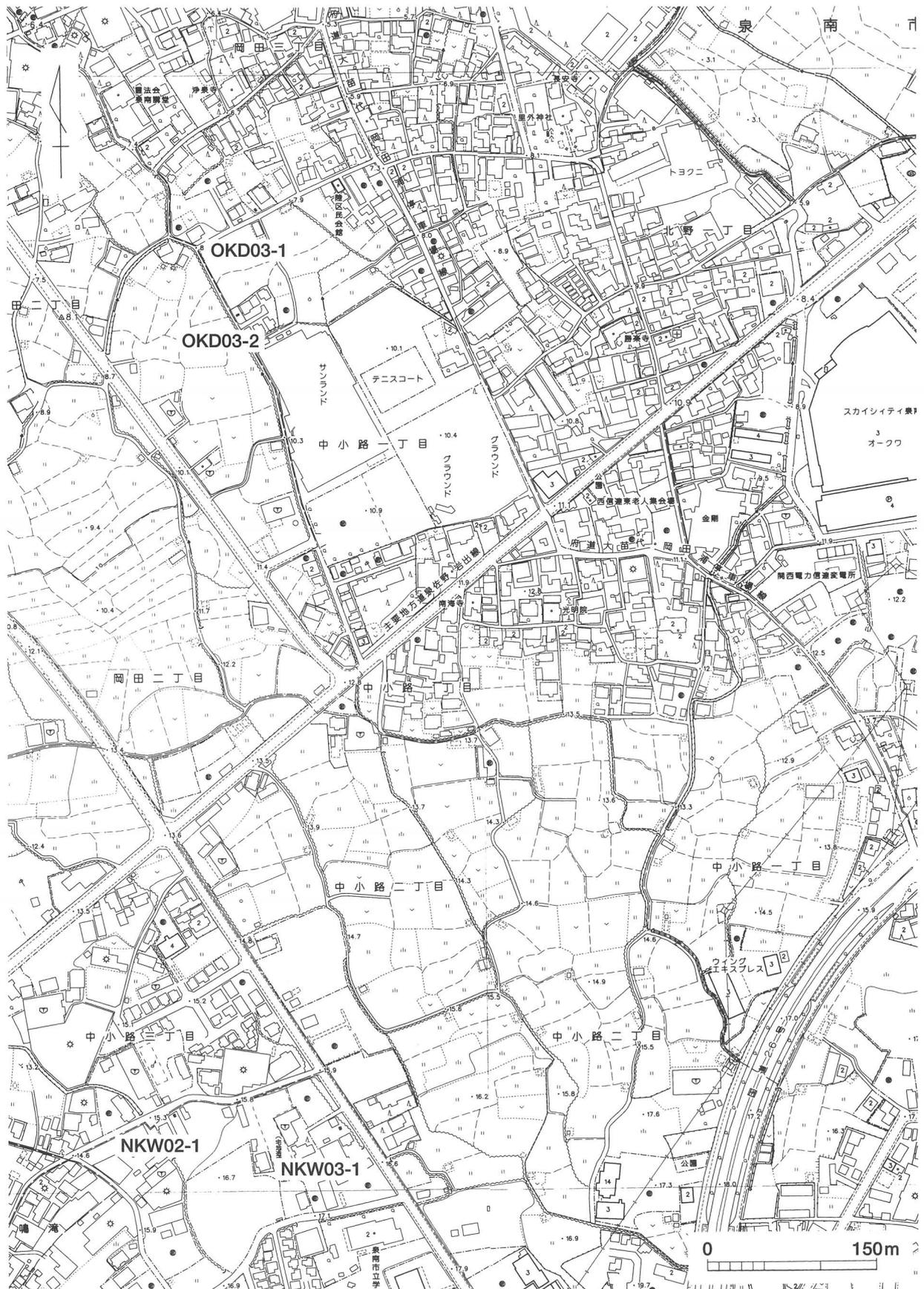
2. 層位と遺物の出土状況

(P L. 4・9)

盛土（1層・約40cm）を除去すると、黒褐色シルト（2層・約20cm）と続き、黄褐色粘土（3層）にいたる。

2層は耕作土で、3層が耕地化以前の自然堆積と考えられる。2・3層上面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。また、いずれの層位からも遺物は出土しなかった。

註 ① 泉南市教育委員会「中小路西遺跡93-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X I』（1994）
② 泉南市教育委員会「中小路西遺跡93-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書X II』（1995）
③ 泉南市教育委員会「新伝寺遺跡」『泉南市文化財年報No.1』（1995）
④ 泉南市教育委員会『店舗建設に伴う北野遺跡発掘調査報告書』（2003）
⑤ ①と同じ。



第18図 岡田遺跡・中小路西遺跡調査区位置図

第7章 岡田遺跡の調査

第1節 既往の調査（P L. 1・2）

遺跡は、現在の岡田集落の南西側に位置し、南東端に住宅地が含まれるものの大半は耕作地として利用されている。これまでの調査は、耕作地における宅地造成などによるものが多く、集落内での調査はあまり例がない。なお、現在の岡田集落は近世には廻船業で栄えたとされる^①。

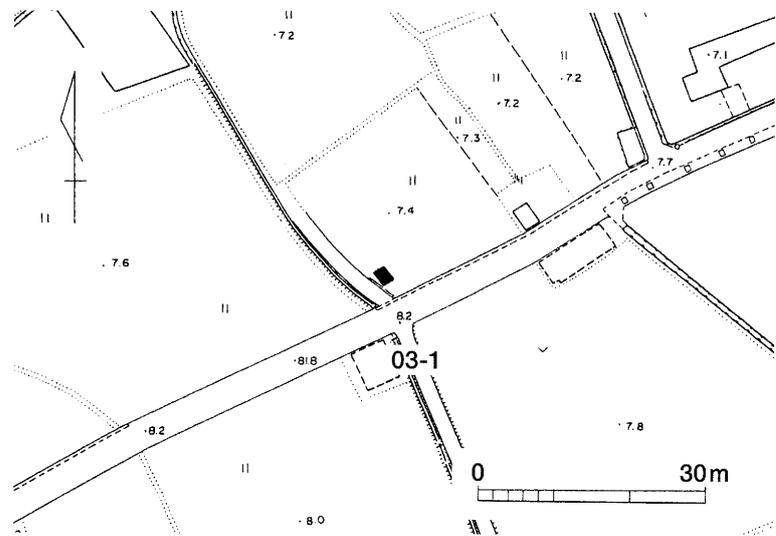
これまで確認されている遺構・遺物は中世以降のものが大半である。中世以前では、遺物のみで90-3区で凹基無茎石鏃^②、90-2区で須恵器が確認されている^③。

中世以降の遺構は、現在の土地利用と同じ傾向を示す。現在耕作地として利用されている市道新設に伴う調査では耕作痕などが確認されており、掘立柱建物などは97-1・2区などの現在の岡田集落内では確認されていない^④。

第2節 03-1区の調査

1. 位置（第18・19図）

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では洪積段丘低位面にあたる。現在の岡田集落南西端に位置し、調査区以西は耕作地として利用されている。付近では、北東側約100mの97-1・2区で15世紀代の掘立柱建物と考えられる柱穴が確認されている^⑤。トレンチは1箇所設定した。



第19図 岡田遺跡03-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

（P L. 4・9）

盛土（1層・約40cm）を除去すると黒褐色シルト（2層・約30cm）、灰褐色シルト（3層・約30cm）と続き、黄褐色シルト（4層）の地山にいたる。2・3層は宅地化以前の耕作土層で、3層から土師器が出土した。3・4層上面で精査を行ったが遺構は確認されなかった。

第3節 03-2区の調査

1. 位置（第18・20図）

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では洪積段丘低位面にあたる。現在の岡田集落の西側に位置し、

周辺は耕作地として利用されている。

トレンチは1箇所設定した。

2. 層位と遺物の出土状況

(P L. 4・9)

盛土(1層・約50cm)を除去すると、黒褐色シルト(2層・約10cm)、灰褐色シルト(3層・約20cm)、黄色粘土ブロック混じり黄灰色シルト(4層・約20cm)と続き、黄色粘土(5層)にいたる。

1層は宅地化に伴う盛土で、2～4層が旧耕作土、5層が地山と考えられる。3・4・5層上面で精査を行ったが、遺構は確認されなかった。このうち4層は、地山である黄色粘土ブロックを含む層位であることから、客土など人為的な二次移動により形成された層位である可能性が指摘できる。

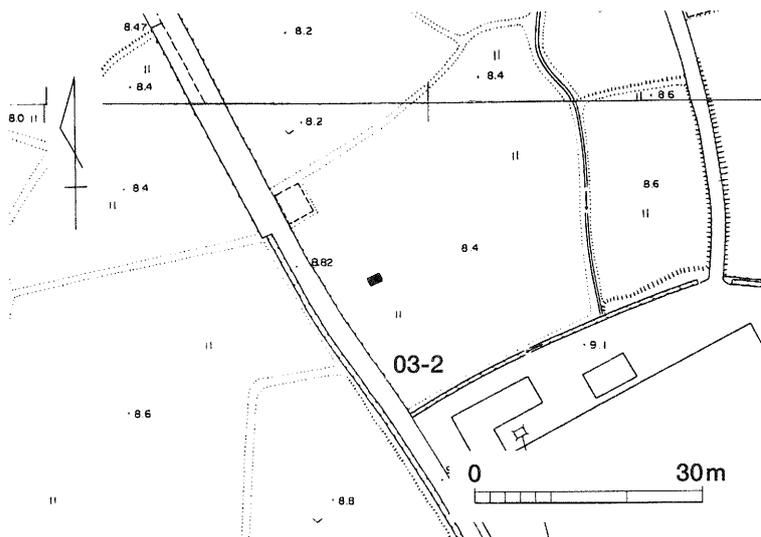
上記の層位のうち、遺物が出土したのは4層のみであった。土師器および真蛸壺など中世の遺物が出土している。

3. 遺物(第21図、P L. 10)

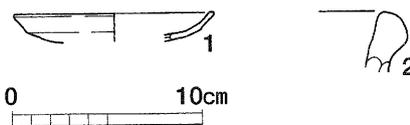
図化できたのは2点。いずれも4層から出土した。

1は土師器椀である。胎土は精良でほとんど砂粒を含まない。磨耗が激しいが、口縁端部にはヨコナデがみられる。復元口径10.4cm。

2は土師質真蛸壺である。口縁端部は丁寧なナデで、内外面にはユビオサエがみられる。小片のため、口径は不明。



第20図 岡田遺跡03-2区地形図



第21図 岡田遺跡03-2区出土遺物

- 註 ① 藤田貞一郎「交通と産業」『泉南市史 通史編』(1987)
② 泉南市教育委員会「岡田遺跡90-3区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書IX』(1992)
③ 泉南市教育委員会「岡田遺跡90-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書IX』(1992)
④ 泉南市教育委員会「調査の経過」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』(1997)
⑤ 泉南市教育委員会「岡田遺跡97-1・2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XIV』(1997)
⑥ ⑤と同じ。

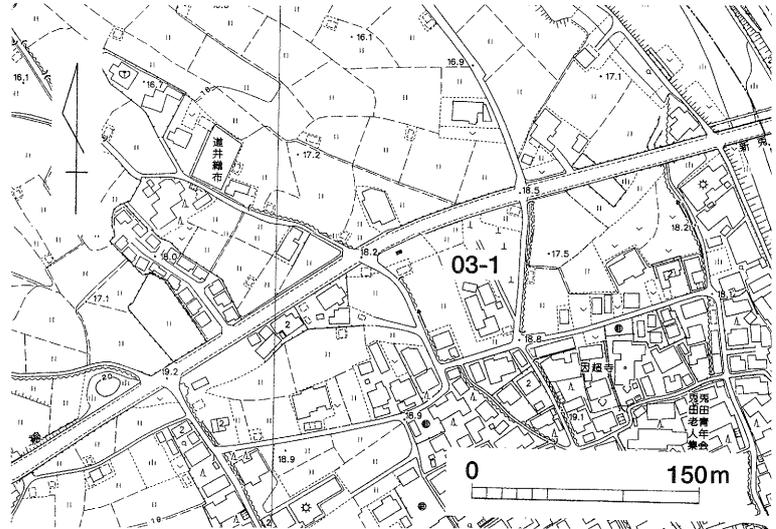
第8章 兎田遺跡の調査

第1節 既往の調査（PL. 1・2）

遺跡は、市域の北東端の椋井川左岸に位置し、新家オドリ山遺跡^①や新家古墳群^②の立地する椋井丘陵の東裾にひろがる。現在の兎田集落とほぼ重複し、これまでの調査は住宅建築などに伴う小規模なもののみである。

確認されている遺構・遺物は中世以降のもので、遺跡中央部の現在の兎田集落内における調査で確認されている。95-2区では中世の包含層^③、98-1区では近世以降の土坑や整地土^④、96-1区では近世の溝やピット^⑤、95-1区では時期不明のピット^⑥が確認されている。

遺跡北東部では、調査例が3件ほどと少なく、現在のところ遺構は確認されていない。02-1区^⑦で時期不明であるが土師器が確認されているのみである。89-1区や94-1区では遺構・遺物ともに確認されていない。

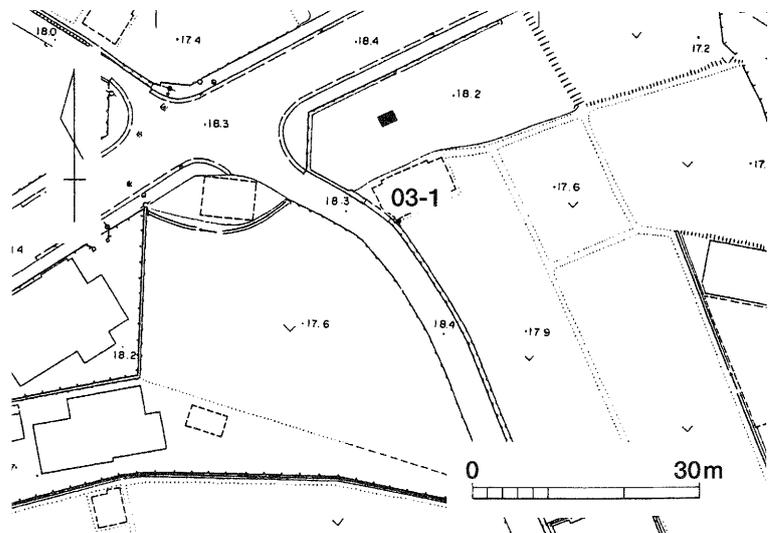


第22図 兎田遺跡調査区位置図

第2節 03-1区の調査

1. 位置（第22・23図）

調査区は、遺跡の北部で、地形分類では自然堤防にあたる。現在の兎田集落の北側約50mに位置し、周囲には耕作地がひろがる。周辺では隣接する02-1区で、遺構は確認されていないが、地山直上のシルト層にて土師器が確認されている^⑧。トレンチは1箇所設定した。



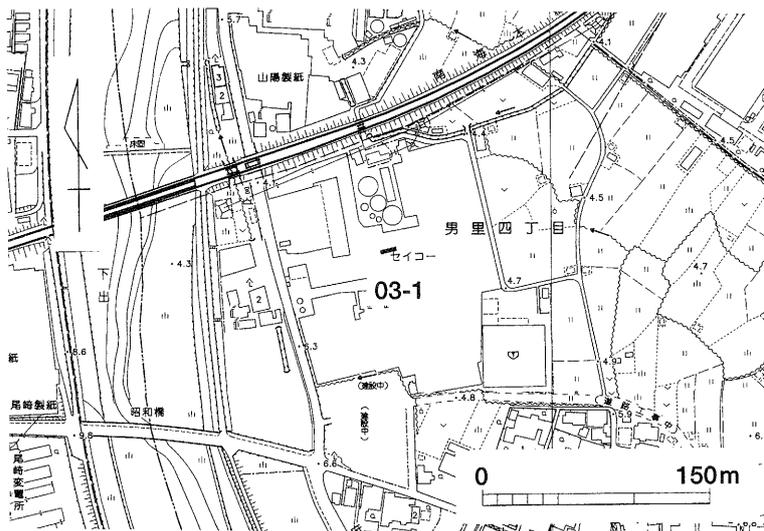
第23図 兎田遺跡03-1区地形図

2. 層位と遺物の出土状況

(PL. 4・9)

盛土（1層・約90cm）を除去すると、青灰色シルト（2層・約10cm）、橙色シルト（3層・約10cm）、褐灰色シルト（4層・約20cm）、黄褐色シルト（5層・約10cm）、褐灰色粗砂混じり灰色シルト（6層・約20cm）と続き、褐灰色粗砂混じり礫（7層）の地山にいたる。

1層は宅地造成に伴う盛土、2～5層は耕作土、6層以下が自然堆積と考えられる。いずれの層位からも遺物は出土せず、6・7層上面にて精査を行ったが遺構は確認されなかった。



第24図 男里北遺跡調査区位置図

- 註 ① 堀田啓一「原始の泉南」『泉南市史 通史編』（1987）
 ② ①と同じ。
 ③ 泉南市教育委員会「兎田遺跡95-2区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅢ』（1996）
 ④ 泉南市教育委員会「兎田遺跡98-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅦ』（2000）
 ⑤ 泉南市教育委員会「兎田遺跡96-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅤ』（1998）
 ⑥ 泉南市教育委員会「兎田遺跡95-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅢ』（1996）
 ⑦ 泉南市教育委員会「兎田遺跡02-1区の調査」『泉南市遺跡群発掘調査報告書XⅩ』（2003）
 ⑧ ⑦と同じ。

第9章 まとめ

本書では、平成15年1月1日から同年12月31日までに行われた文化財保護法に基づく届出等に伴う発掘調査の成果を報告している。以下、本書掲載の調査成果を概観し、まとめとしたい。

男里遺跡では6件の調査を報告した。

03-1区では、縄文時代に埋没した自然地形を確認した。埋土が粘土質であることから、湿地状の澱んだ状態であったと考えられる。本調査区付近は地形分類では旧河道にあたる。東側の97-7区では奈良時代の遺構面が確認されており、西側の95-8区などでは縄文時代晩期以降の流路が確認されている。本調査区は旧河道東岸付近にあたると考えられ、付近は東から西に向かってレベルを下げる地形であったと考えられる。

03-2区では、遺跡北東端における数少ない調査例であった。今回は植物痕と考えられるピットのみで顕著な遺構が確認されなかったものの、6層は周囲で確認されている遺構面と同一の層位と考えられ、付近に遺構の存在する可能性は高い。

03-3区では、既往の調査で確認されている集落跡の範囲を想定しうる資料を得た。遺構・遺物が確認されなかったものの、付近では遺構が多く確認されている。北西約100mの96-1区などでは飛鳥時代から奈良時代、南約100mの90-10区を中心として中世の遺構が確認されており、いずれも集落跡と考えられる。本調査区は、これらの集落跡の周縁付近にあたる考えられ、今回の調査成果からその範囲が想定できる。

03-4区では、河川堆積を確認した。遺物が出土せず時期は不明であるが、旧男里川に由来するものと考えられ、過去の自然地形を復元する有効な資料を得た。

03-5区では、土地利用の変遷を確認した。中世以降には耕作地として、さらに近代以降には宅地へと利用形態の変遷が想定できる。

03-6区では、8世紀代の遺構面と考えられる層位を確認した。直上包含層は削平されているものの、周囲に遺構が存在する可能性が高い。また、近世以降の火災の痕跡を確認した。焼土面は確認しておらず火災後の整地土の痕跡と考えられるが、そこには焼土や被熱した瓦片を多く含む。その時期は出土した瓦から近世以降と考えられる。

戎畑遺跡では2件の調査を報告した。いずれも95-1区の調査成果を補完するものである。

このうち、02-3区では95-1区で確認された掘立柱建物の規模を想定できうる資料を得た。土地区画整備による道路部分を調査対象とした95-1区では、本調査区に隣接する地点で、調査区外西側（本調査区付近）へとひろがる掘立柱建物が確認されている。両調査区の位置関係を正確にしたうえで判断する必要があるが、今回確認したピットがその一部である可能性が指摘できる。

幡代遺跡では3件の調査を報告した。

03-1区では、盛土と河川氾濫に起因する礫層を確認した。盛土内には、人頭大の礫が多く含まれていた。トレンチ内で確認した礫層は20cm以下のもので、盛土内の礫は人為的に持ち込まれたものと考えられる。調査区周辺の宅地は、砂岩自然石によるいわゆる「ノヅラ積み」で宅地境界を囲うものが散見される。確認した礫は、近代以前に調査区（光明寺）の境界が、ノヅラ積みで囲われていた可能性を示す。

03-2区では、遺跡東側が比較的不安定な土地であった可能性を指摘しうる資料を得た。近世以降の宅地化に伴うものであろう盛土の直下が、河川堆積に起因する礫層や粗砂であることから、近世以前の比較的新しい年代まで金熊寺川の氾濫作用に影響を受けていた可能性が想定できる。

02-3区では、耕作土の直下で河川堆積と考えられる礫層を確認した。遺物が出土しなかったため時期は不明であるが、耕作地として利用される以前は金熊寺川の氾濫作用に影響を受けやすい箇所であったことがわかる。

岡中遺跡では1件の調査を報告した。

02-3区は中世寺院や鍛冶関連工房の存在が指摘されている箇所の南東約50mにあたることから、同様の調査成果が期待された。調査では、自然堆積と考えられる層位が確認されたにもかかわらず、顕著な遺構は確認されなかったが、中世寺院や鍛冶関連工房の範囲を限定する資料を得た。

中小路西遺跡では1件の調査を報告した。

02-1区では遺構は確認できなかったものの、周辺の調査区で確認されている遺構面に対応する層位を確認した。中世の灌漑水路と考えられる溝が確認されている93-1区の遺構面は、本調査区で確認した3層と層位的に対応するものと考えられる。本調査区では耕作痕などが確認されていない。削平されている可能性も考えられるが、今回の調査では、93-1区で確認した灌漑水路が機能していた時点での、耕作地の範囲を限定するための資料を得たといえる。

岡田遺跡では、2件の調査を報告した。

03-1区では、現在の岡田集落南東端における調査で、15世紀の掘立柱建物が確認されている97-1・2区から南西約100mの地点にあたることから、遺構の存在が期待された。調査では遺構は確認されなかったが、現在の岡田集落内における遺構分布を知りうる資料を得たといえよう。

03-2区では、耕作地として利用された時期を知りうる資料を得た。耕作土最下層の層位が客土によるものであることを確認し、出土遺物からは中世以前の時期が想定できる。ただ、周辺は近代にレンガ製作に用いる粘土を採取していたことから、今回確認した客土が近代における粘土採取後の可能性も考えられる。

兎田遺跡では、1件の調査を報告した。

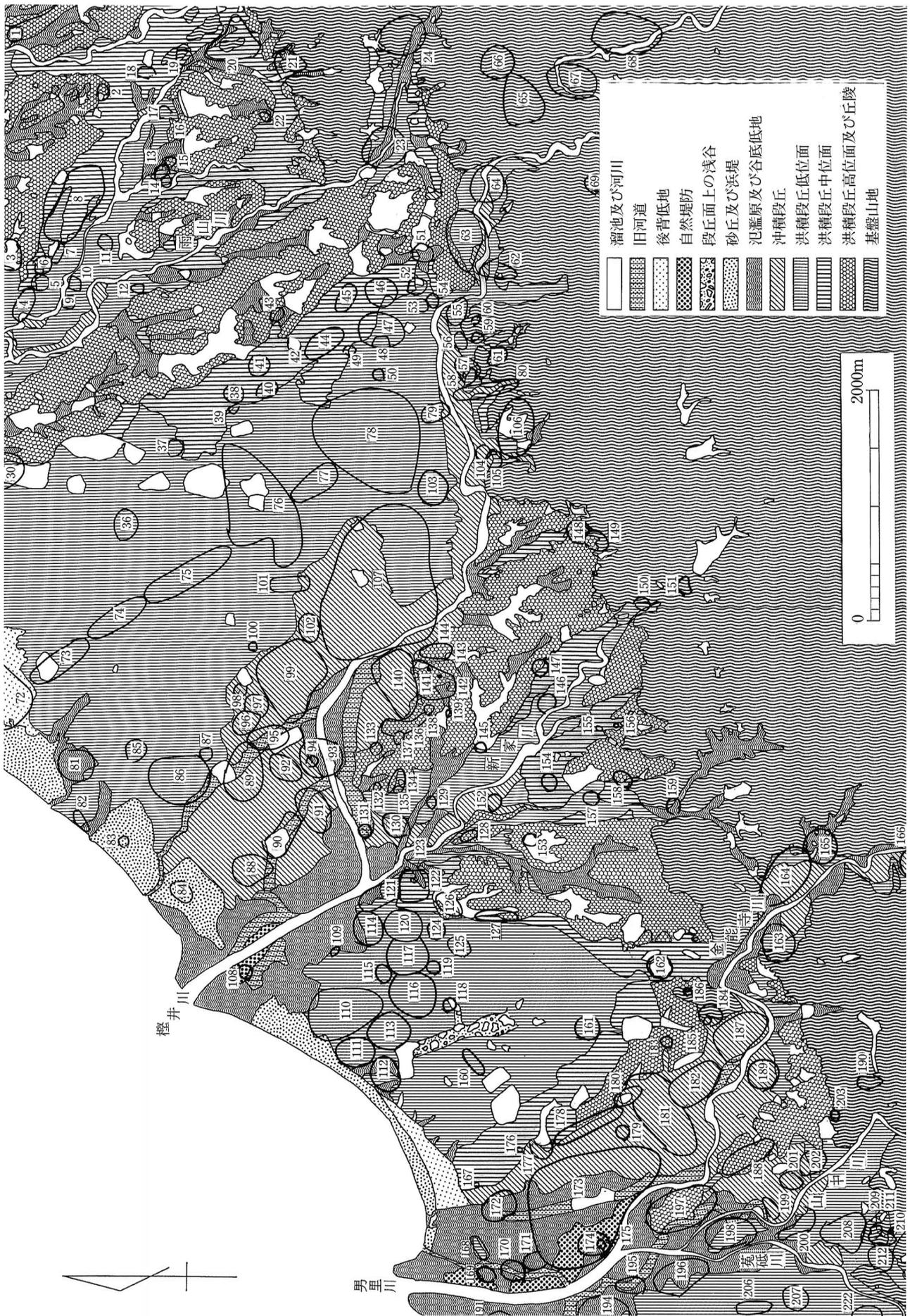
03-1区では、耕作土以下は礫や粗砂で構成される層位であることを確認した。明確な時期は不明であるが、耕作地として利用される以前には樫井川に頻繁に影響を受ける箇所であったことが指摘できる。

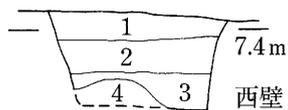
第5表 文化財一覧表

1	正法寺跡	47	野々宮遺跡	93	樫井城跡	139	引谷池窯跡	185	林昌寺瓦窯跡
2	小垣内遺跡	48	総福寺天満宮本殿	94	奥家住宅	140	兎田遺跡	186	林昌寺銅鐸出土地
3	大谷池遺跡	49	宮ノ前遺跡	95	道ノ池遺跡	141	フキアゲ山東遺跡	187	岡中遺跡
4	大久保B遺跡	50	垣外遺跡	96	岡ノ崎遺跡	142	フキアゲ山1号墳	188	高田山古墳群
5	下高田遺跡	51	屯田遺跡	97	中菖蒲遺跡	143	フキアゲ山2号墳	189	岡中西遺跡
6	紺屋遺跡	52	八王子遺跡	98	岸ノ下遺跡	144	兎田古墳群	190	雨山南遺跡
7	口無池遺跡	53	慈眼院金堂・多宝塔	99	諸目遺跡	145	池尻遺跡	191	福島遺跡
8	東門寺跡	54	日根神社遺跡	100	城ノ塚古墳	146	中の川遺跡	192	尾崎海岸遺跡
9	降井家屋敷跡	55	西ノ上遺跡	101	禅興寺跡	147	岩の前遺跡	193	馬川北遺跡
10	大久保C遺跡	56	川原遺跡	102	タイジョウ寺跡	148	別所北遺跡	194	馬川遺跡
11	中家住宅	57	母山遺跡	103	上之郷遺跡	149	別所遺跡	195	下出北遺跡
12	大久保A遺跡	58	母山近世墓地	104	向井代遺跡	150	高野遺跡	196	室堂遺跡
13	五門北古墳	59	向井山遺跡	105	意賀美神社本殿	151	昭和池遺跡	197	平野寺(長楽寺)跡
14	五門遺跡	60	鏡塚古墳	106	向井池遺跡	152	上村遺跡	198	向出遺跡
15	五門古墳	61	梨谷遺跡	107	三軒屋遺跡	153	狐池遺跡	199	高田西遺跡
16	大浦中世墓地	62	笹ノ山遺跡	108	川原遺跡	154	上野中道遺跡	200	向山遺跡
17	大浦遺跡	63	土丸遺跡	109	岡田東遺跡	155	宮遺跡	201	高田南遺跡
18	甲田家住宅	64	土丸南遺跡	110	岡田遺跡	156	宮南遺跡	202	和泉鳥取遺跡
19	久保B遺跡	65	雨山城跡	111	氏の松遺跡	157	芋掘遺跡	203	雨山遺跡
20	鳥羽殿城跡	66	土丸城跡	112	座頭池遺跡	158	石ヶ原遺跡	204	内畑遺跡
21	墓の谷遺跡	67	下大木遺跡	113	岡田西遺跡	159	高倉山南遺跡	205	皿田池古墳
22	来迎寺本堂	68	大木遺跡	114	新伝寺遺跡	160	本田池遺跡	206	正方寺遺跡
23	池ノ谷遺跡	69	稲倉池北方遺跡	115	中小路北遺跡	161	上代石塚遺跡	207	西畑遺跡
24	成合寺遺跡	70	大西遺跡	116	中小路西遺跡	162	信之池遺跡	208	自然田遺跡
25	山ノ下城跡	71	松原遺跡	117	中小路遺跡	163	滑瀬遺跡	209	玉田山遺跡
26	山出遺跡	72	中開遺跡	118	坊主池遺跡	164	六尾遺跡	210	玉田山古墳群
27	上瓦屋遺跡	73	未廣遺跡	119	中小路南遺跡	165	六尾南遺跡	211	玉田山須恵器窯跡
28	湊遺跡	74	安松遺跡	120	北野遺跡	166	金熊寺遺跡	212	寺田山遺跡
29	壇波羅密寺跡	75	長滝遺跡	121	一岡神社遺跡	167	専徳寺遺跡	213	黒田西遺跡
30	壇波羅遺跡	76	植田池遺跡	122	海会寺跡	168	天神ノ森遺跡	214	鳥取北遺跡
31	佐野王子跡	77	郷ノ芝遺跡	123	海会寺瓦窯	169	キレット遺跡	215	鳥取遺跡
32	上町東遺跡	78	日根野遺跡	124	大苗代遺跡	170	高田遺跡	216	鳥取南遺跡
33	市場東遺跡	79	机場遺跡	125	仏性寺跡	171	男里北遺跡	217	黒田南遺跡
34	若宮遺跡	80	棚原遺跡	126	海宮宮池遺跡	172	戎畑遺跡	218	神光寺(蓮池)遺跡
35	上町遺跡	81	羽倉崎東遺跡	127	市場遺跡	173	男里遺跡	219	三味谷遺跡
36	俵屋遺跡	82	羽倉崎遺跡	128	向井山遺跡	174	光平寺跡	220	三升五合山遺跡
37	北尻遺跡	83	嘉祥神社本殿	129	新家遺跡	175	光平寺石造五輪塔	221	小口谷遺跡
38	岡口遺跡	84	道ノ池遺跡	130	下村遺跡	176	樽井南遺跡	222	井関遺跡
39	中嶋遺跡	85	羽倉崎上町遺跡	131	下村北遺跡	177	男里東遺跡	223	石田山遺跡
40	小塚遺跡	86	船岡山遺跡	132	下村1号墳	178	長山遺跡	224	西鳥取遺跡
41	十二谷遺跡	87	岡本廃寺	133	新家オドリ山東遺跡	179	山ノ宮遺跡	225	戎遺跡
42	丁田遺跡	88	田尻遺跡	134	新家オドリ山遺跡	180	前田池遺跡	226	貝掛遺跡
43	新池尻遺跡	89	船岡山南遺跡	135	下村2号墳	181	幡代遺跡	227	金剛寺遺跡
44	大坪遺跡	90	夫婦池遺跡	136	新家古墳群	182	幡代南遺跡	228	塚谷古墳群
45	市堂遺跡	91	樫井西遺跡	137	新家オドリ山南遺跡	183	奥ノ池遺跡		
46	北ノ前遺跡	92	藤波遺跡	138	フキアゲ山西遺跡	184	林昌寺跡		

圖 版

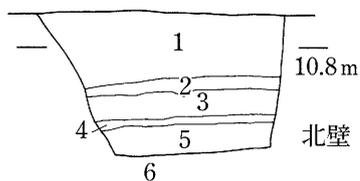






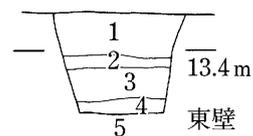
ON03-1区断面図

- 1.青灰色シルト
- 2.灰褐色シルト
- 3.黒褐色粘土
- 4.礫混じり黒褐色粘土



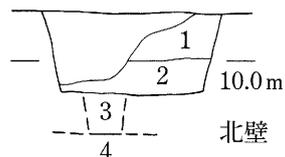
ON03-2区断面図

- 1.盛土
- 2.青灰色シルト
- 3.褐灰色シルト (マンガン粒含)
- 4.茶褐色シルト
- 5.黒褐色シルト
- 6.黄褐色シルト



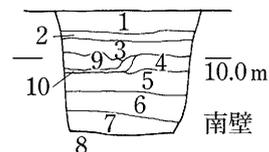
ON03-3区断面図

- 1.盛土
- 2.黒褐色シルト
- 3.茶褐色シルト
- 4.茶褐色シルト混じり礫
- 5.黄褐色シルト混じり礫



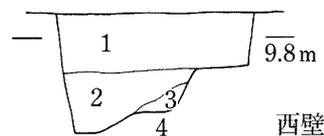
ON03-4区断面図

- 1.暗黄褐色粘性土(礫多量混)
- 2.褐色粘性土
- 3.黄褐色砂礫層(粘性土混)
- 4.暗褐色砂礫



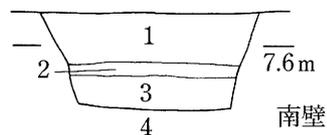
ON03-5区断面図

- 1.盛土
- 2.暗灰色シルト
- 3.灰色シルト
- 4.褐灰色シルト(炭混じり)
- 5.灰褐色シルト
- 6.灰褐色シルト混じり黄褐色粘土
- 7.黄褐色シルト
- 8.灰色粗砂混じり礫
- 9.黄褐色粘土
- 10.灰褐色シルト



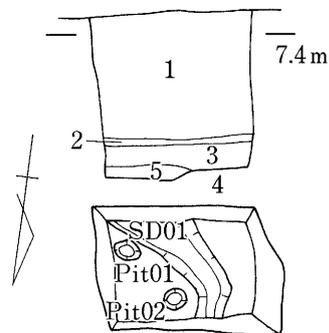
ON03-6区断面図

- 1.褐灰色シルト
- 2.焼土混じり褐色シルト
- 3.褐灰色シルト
- 4.黄褐色シルト



EB02-2区断面図

- 1.盛土
- 2.灰褐色シルト
- 3.茶褐色シルト
- 4.礫混じり黄褐色シルト

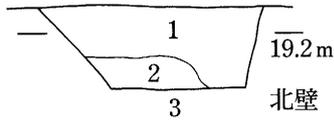


EB02-3区平面図および断面図

- 1.盛土
- 2.灰褐色シルト
- 3.黒褐色シルト
- 4.黄褐色シルト
- 5.暗灰褐色シルト(礫少量混じる)

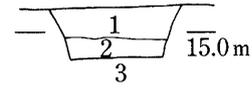


P L. 4 幡代遺跡、岡中遺跡、中小路西遺跡、岡田遺跡、兎田遺跡調査区



HT03-1区断面図

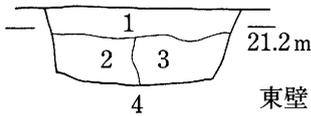
- 1.盛土
- 2.礫混じり灰褐色粗砂
- 3.礫混じり灰色粗砂



NKW 02-1区断面図

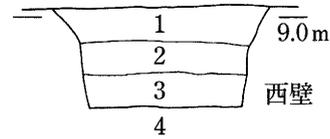
南壁

- 1.盛土
- 2.黒褐色シルト
- 3.黄褐色粘土



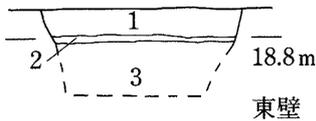
HT03-2区断面図

- 1.盛土
- 2.礫混じり褐灰色シルト
- 3.礫混じり黒褐色粗砂
- 4.礫混じり暗褐色粗砂



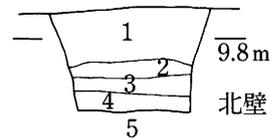
OKD03-1区断面図

- 1.盛土
- 2.黒褐色シルト
- 3.灰褐色シルト
- 4.黄褐色シルト



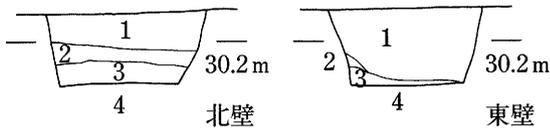
HT02-3区断面図

- 1.黒褐色シルト
- 2.黄褐色シルト(マンガン粒含)
- 3.灰褐色粗砂混じり礫



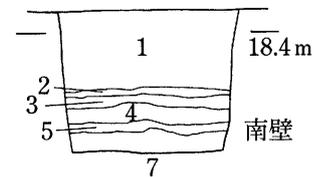
OKD03-2区断面図

- 1.盛土
- 2.黒褐色シルト
- 3.灰褐色シルト
- 4.黄色粘土ブロック混じり黄灰色シルト
- 5.黄色粘土



OK 02-3区断面図

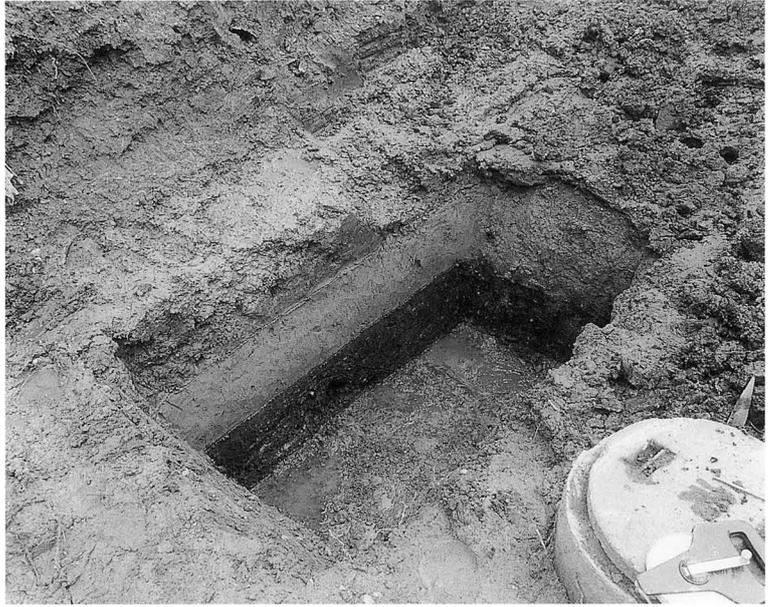
- 1.盛土
- 2.褐灰色シルト
- 3.褐灰色粗砂混じり礫
- 4.茶褐色粗砂混じり礫



US03-1区断面図

- 1.盛土
- 2.青灰色シルト
- 3.橙色シルト
- 4.褐灰色シルト
- 5.黄橙色シルト
- 6.褐灰色粗砂混じり灰色シルト
- 7.褐灰色粗砂混じり礫

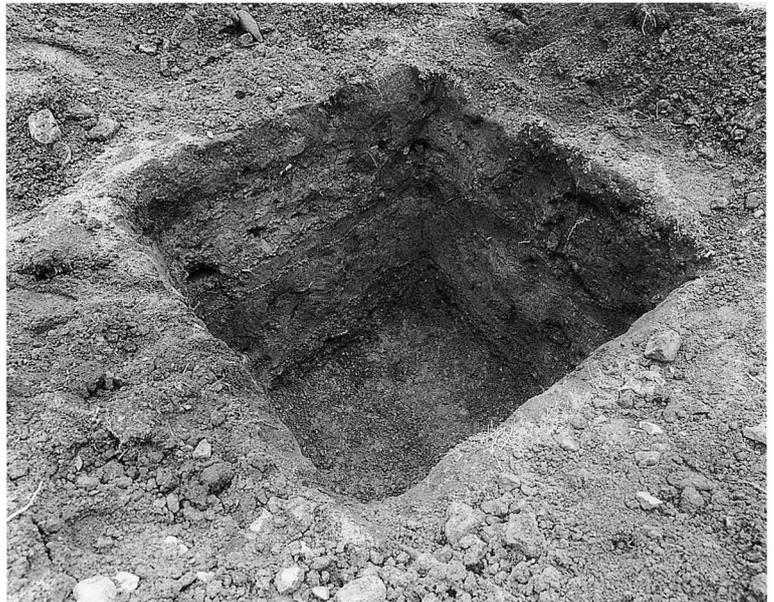




ON03-1区
(南から)



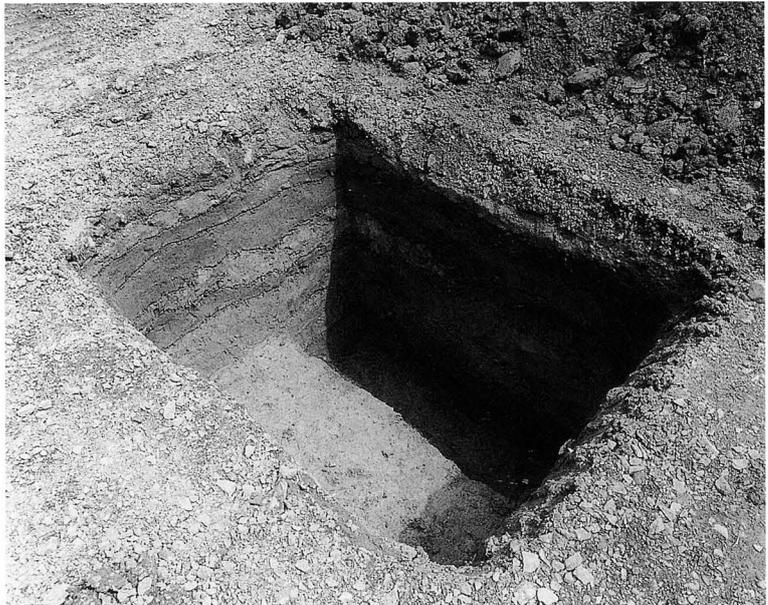
ON03-2区
(東から)



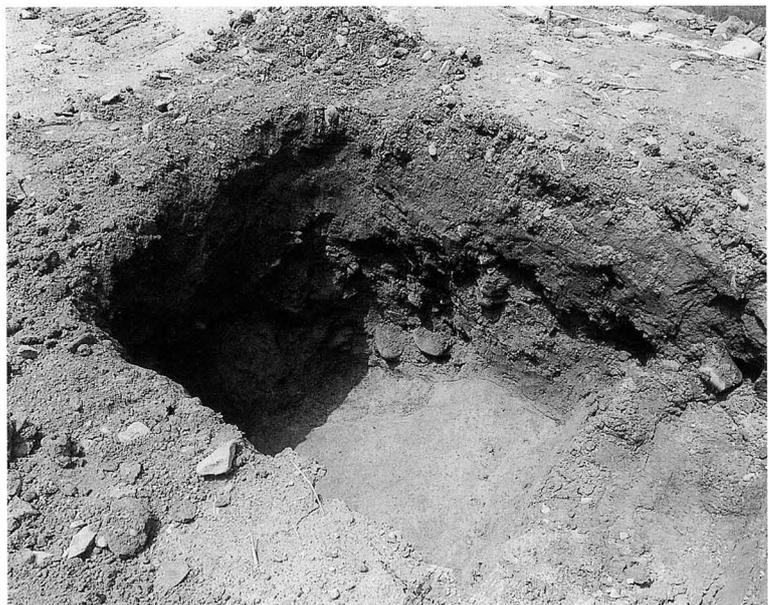
ON03-3区
(南から)



ON03-4区
(西から)



ON03-5区
(南から)



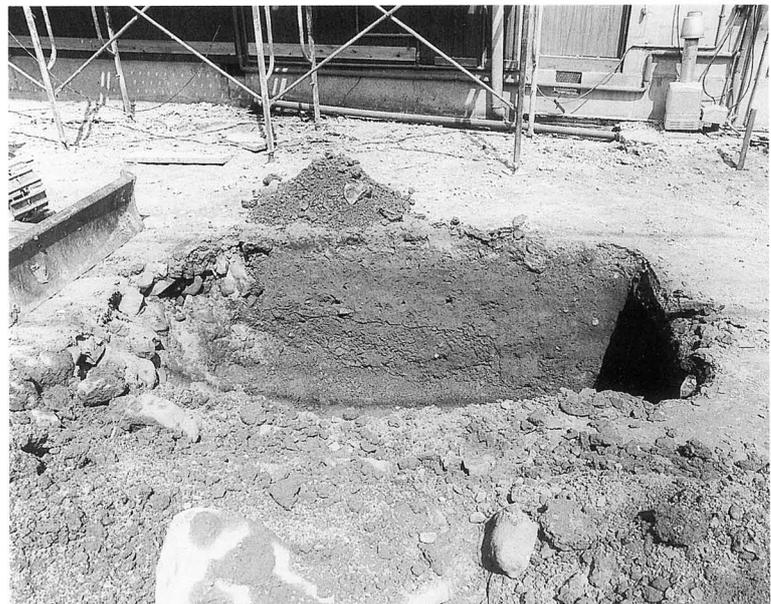
ON03-6区
(北から)



E B02-2区
(南から)



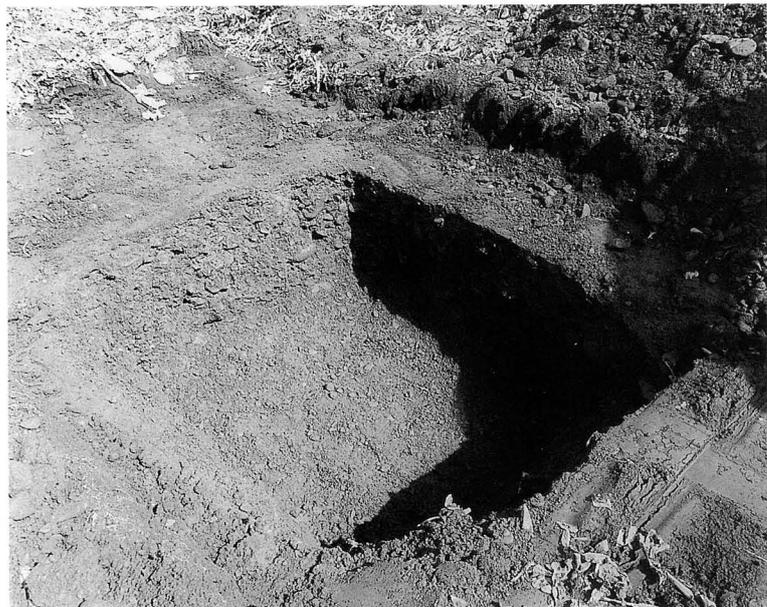
E B02-3区
(西から)



H T03-1区
(南から)



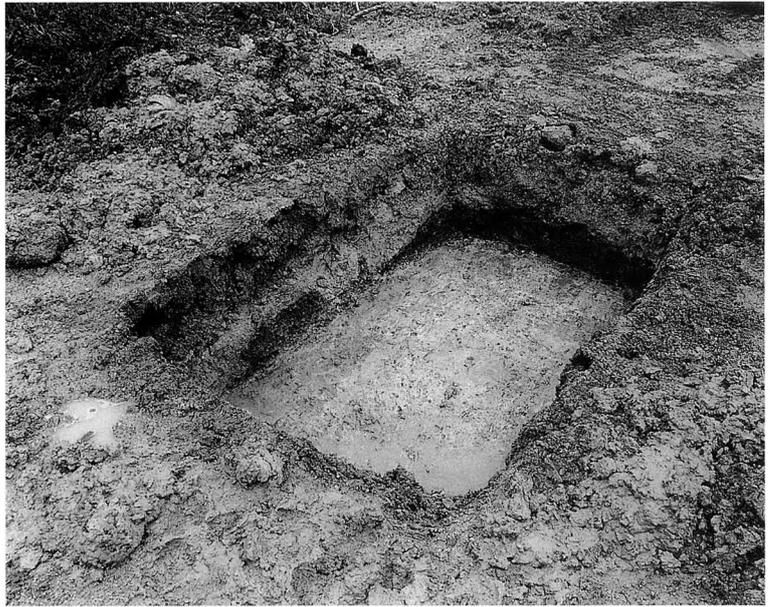
H T 03 - 2 区
(西から)



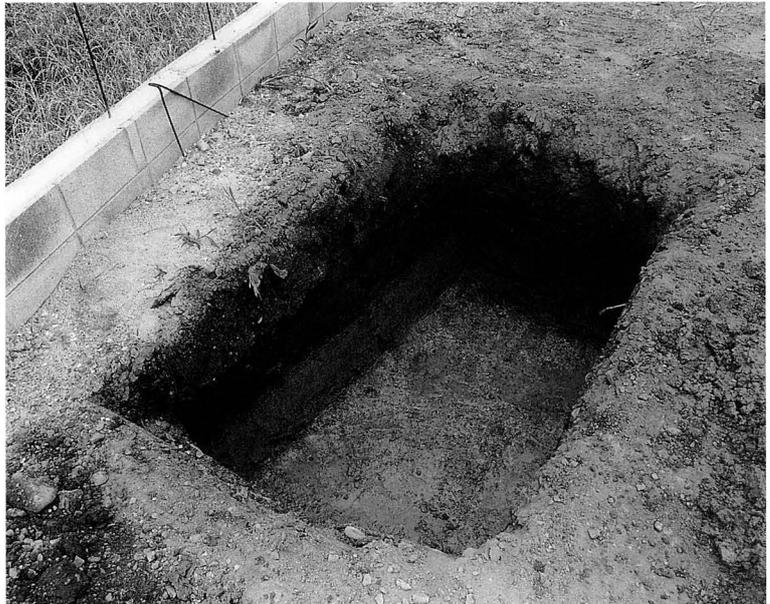
H T 02 - 3 区
(南から)



O K 02 - 3 区
(南から)



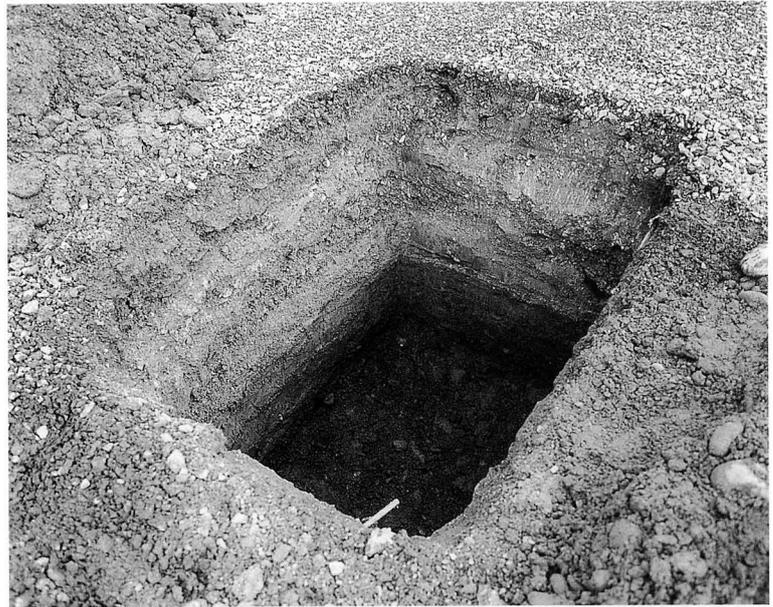
NKW02-1区
(西から)



OK D03-1区
(南から)



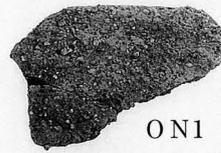
OK D03-2区
(西から)



US03-1区
(南東から)



ON03-1



ON1



EB1



EB2



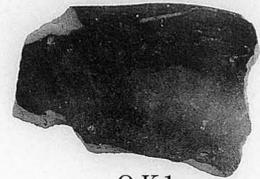
EB3



OKD1



OKD2



OK1



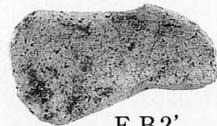
ON03-1'



ON1'



EB1'



EB2'



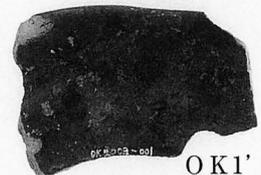
EB3'



OKD1'



OKD2'



OK1'

報告書抄録

ふりがな	せんなんしいせきぐん はくつちようさほうこくしょ 21							
書名	泉南市遺跡群発掘調査報告書							
副書名	—							
巻次	XXI							
シリーズ名	泉南市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第42集							
編著者名	石橋広和・河田泰之							
編集機関	泉南市教育委員会							
所在地	〒590-0592 大阪府泉南市樽井1丁目1番1号 Tel.0724-83-0001							
発行年月日	西暦2004年3月31日							
ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯	東経	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡					
おの 男里遺跡	おの 大阪府泉南市 男里	27228	ON	34度 21分 30秒	135度 15分 40秒	03-1 200306 03-2 200309 03-3 200305 03-4 200304 03-5 200304 03-6 200307	2 4 2 3 3 4	個人住宅 個人住宅 介護施設サービス事業所 個人住宅 個人住宅 個人住宅
えびす 戎畑遺跡	えびす 大阪府泉南市 樽井	27228	EB	34度 21分 56秒	135度 15分 39秒	02-2 200303 02-3 200303	4 3	共同住宅 個人住宅
はた 幡代遺跡	はた 大阪府泉南市 幡代	27228	HT	34度 21分 09秒	135度 16分 08秒	03-1 200309 03-2 200309 02-3 200303	4 2 3	個人住宅 個人住宅 個人住宅
おか 岡中遺跡	おか 大阪府泉南市 信達岡中	27228	OK	34度 20分 51秒	135度 16分 38秒	02-3 200303	5	個人住宅
な 中小路西遺跡	な 大阪府泉南市 中小路	27228	NKW	34度 22分 15秒	135度 17分 02秒	02-1 200303	3	個人住宅
おか 岡田遺跡	おか 大阪府泉南市 岡田	27228	OKD	34度 22分 27秒	135度 16分 45秒	03-1 200307 03-2 200304	3 3	個人住宅 個人住宅
うさ 兎田遺跡	うさ 大阪府泉南市 兎田	27228	US	34度 22分 25秒	135度 18分 38秒	03-1 200312	2	個人住宅

所収遺跡名	種 別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
男里遺跡 03-1		縄文時代	旧河道？	土師器・縄文土器・サヌ カイト剥片	男里川の旧河道？
03-2		不明	ピット	土師質土器	植物痕？
03-3		-	-	-	
03-4		-	-	-	
03-5		中世・近代	耕作土・整地土	瓦器・陶磁器	耕地化から宅地化への 過程を層位的に把握
03-6		近世	-	瓦	8世紀代の遺構面と考 えられる層位を確認
戎畑遺跡 02-2		不明	-	土師質土器	95-1区に対応する遺 構面を確認
02-3		中世	溝・ピット	瓦器・土師器・管状土錘・ 土師質真蛸壺	95-1区に対応する遺 構面を確認
幡代遺跡 03-1		近世以降	-	陶磁器	
03-2		-	-	-	
02-3		-	-	-	
岡中遺跡 02-3		中世	-	瓦器・土師器	
中小路西遺跡 02-3		-	-	-	
岡田遺跡 03-1		不明	-	土師器	
03-2		中世	-	土師器・土師質真蛸壺	
兎田遺跡 03-1		-	-	-	

泉南市遺跡群発掘調査報告書XXI

泉南市文化財調査報告書 第42集

2004年 3月31日

編集・発行 大阪府泉南市教育委員会

泉南市樽井1丁目1番1号

Tel.0724-83-0001

印刷 有限会社 ヌノタ印刷工房

泉南市新家4509-4.1-205

Tel.0724-80-2760

